

Scanning Arts 2 for WIN

ソフトウェア使用許諾契約書.....	i	第6章 スキャンしたデータを保存するには ～スキャンモード～	
登録商標について.....	i	6.1 スキャンしたデータを保存する.....	18
本書に関する注意.....	i	6.2 スキャンモードの機能.....	20
サポート.....	i	6.3 こんなときには.....	23
第1章 はじめに		第7章 「原稿の種類」ユーザ定義を作成する	
1.1 はじめに.....	1	7.1 原稿の種類設定ウィンドウの構成.....	24
1.2 特長.....	1	7.2 ユーザ定義の作成方法.....	26
1.3 動作環境.....	1	7.3 設定項目の詳細.....	27
第2章 セットアップ		7.3.1 共通の項目.....	27
2.1 Scanning Arts 2 for WINのインストール.....	1	7.3.2 スキャン設定.....	27
2.1.1 「スタート」ウィンドウの起動.....	1	7.3.2.1 原稿の種類(白黒).....	27
2.1.2 Scanning Arts 2 for WINのインストール.....	1	7.3.2.2 原稿の種類(グレースケール).....	29
第3章 Scanning Arts 2 for WINの使い方		7.3.2.3 原稿の種類(減色処理).....	31
3.1 Scanning Arts 2 for WINの起動と終了.....	3	7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー).....	34
3.2 Scanning Arts 2 for WINの画面構成.....	3	7.4 色の変更ウィンドウ.....	37
3.2.1 モード選択ウィンドウ.....	3	7.4.1 色の変更ウィンドウ.....	37
3.2.2 メインウィンドウ.....	4	7.4.2 色の変更ウィンドウの構成.....	39
3.2.2.1 共通エリア.....	5	7.4.3 色の選択.....	41
3.2.2.2 プレビューエリア.....	6	7.5 こんなときには.....	41
3.2.2.3 設定エリア.....	7	第8章 設定ウィンドウ	
第4章 原稿をコピーするには ～コピーモード～		8.1 全般タブ.....	42
4.1 原稿をコピーする.....	8	8.2 スキャナタブ.....	44
4.2 コピーモードの機能.....	11	8.3 プリンタタブ.....	46
4.3 こんなときには.....	14	8.4 ファイルタブ.....	47
第5章 ファイルをプリントするには ～プリントモード～		第9章 ファイル形式について.....	48
5.1 ファイルをプリントする.....	15	索引.....	50
5.2 プリントモードの機能.....	17		

ソフトウェア使用許諾契約書

グラフテック株式会社（以下当社と呼びます）は、本規定とともに提供するソフトウェア（以下本ソフトウェアと呼びます）を、日本国内に限って使用する権利を、下記条件にもとづきお客様に許諾し、お客様も下記条件にご同意頂くものとします。

1. 著作権

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアに伴って提供されるマニュアル等の印刷物に記載された情報の著作権は本ソフトウェアまたは当該印刷物に記述された個人または法人にそれぞれ属します。

2. 使用権

- ① お客様は、本ソフトウェアを一時に一台のコンピュータ機器に使用できます。
- ② お客様は、本ソフトウェアを輸出または日本国外に持ち出すことはできません。

3. 複製または改造

- ① お客様は、予備（バックアップ）のため、本ソフトウェアを複製することができます。この場合、お客様はすべての複製物に本ソフトウェアに付された権利（著作権）表示を行うものとします。
- ② お客様は、本ソフトウェアの逆アセンブル及び逆コンパイルを含め、いかなる方法によっても、本ソフトウェアを改変、結合、修正、その他の翻案を行うことはできません。

4. 第三者の使用

お客様は、本ソフトウェアおよび使用権を第三者に対して、再使用許諾、譲渡、移転、その他の処分を行うことはできません。

5. 保証

- ① 本ソフトウェアの記憶媒体の物理的不良のために、本ソフトウェアが正常に動作しない場合には、弊社またはお買い上げの販売店にお申しつけください。当該物理的不良について当社に責任がある場合無償で交換いたします。
- ② 前項の交換は本ソフトウェアの記憶媒体に対する当社の唯一の保証と致します。
- ③ 当社は本ソフトウェアを「そのままの状態」で提供します。当社およびサプライヤーは、お客様が本ソフトウェアまたはドキュメンテーションのご使用によって得られる可能性のある性能または結果については保証致しません。また、当社およびそのサプライヤーは、第三者の権利の不侵害、商品性または特定目的への適合性に関して、いかなる明示または黙示の保証も致しません。いかなる場合においても当社またはそのサプライヤーは、付随的、派生的または特別の損害について責任を負いません。たとえ販売店がその種の損害が発生する可能性について通知をしていたとしても、当社またはそのサプライヤーは責任を負うものではありません。第三者からなされる権利の主張に対する責任も負いません。

登録商標について

- ◆ 本書に記載されている会社名、製品名は各社の登録商標、または商標です。
- ◆ 『Scanning Arts 2 for WIN』ソフトウェア本体及び本書は、グラフテック株式会社がすべての著作権を保有しています。

本書に関する注意

- ◆ 本書の内容の一部、または全部を無断で複製、転載することを禁止します。
- ◆ 本書の内容および製品の仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
- ◆ 本書および製品の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不明な点や誤りなどお気付きの点がございましたら、弊社またはお買い上げの販売店にご連絡ください。
- ◆ 本書、および製品を運用した結果の影響につきましては、上記の項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

サポート

- ◆ グラフテック株式会社 コールセンター
TEL : 0570-016262（ナビダイヤル）
※ 携帯電話をご使用の場合、つながらないことがあります。その場合は、045-825-6382におかけください。
FAX : 0120-710697
E-mail : graphcs@graphtec.co.jp

第1章 はじめに

1.1 はじめに

Scanning Arts 2 for WINは、大きなサイズの図面やポスターなどを、簡単な操作で手軽に高画質のコピーを行うことができます。また、コピー機能以外でも原稿をスキャンしてファイルを作成するスキャン機能や、スキャンしたファイルをプリントすることができます。

1.2 特長

簡単コピー機能

単純明快なメニューで、初めての人でも簡単にコピーが可能です。

プロユースにも応える色調整機能

原稿種類作成モードを搭載することで、個々の原稿に合わせた設定をワンタッチで呼び出すことが可能です。

スキャン機能

大判図面、ポスター等をスキャンして、デジタルデータとして保存することが可能です。ファイル名自動取得で、連続スキャンにも対応しています。

プリント機能

ファイル保存していたデータをプリンタに出力します。

sRGB、Adobe RGB 機能

CSX510/530/550は、sRGB、Adobe RGBの色空間を使用してスキャンすることが可能です。

※ コピーモード時の出力結果は、プリンタドライバの色調整機能により大きく変わります。出力結果に応じてプリンタドライバの色調整機能とスキャン設定を変更してください。

1.3 動作環境

- ◆ OS : WindowsXP Service Pack 2以降、Windows Vista、Windows 7
※ Windows (32bit版/64bit版) にも対応しております。
 - ◆ CPU : Pentium4、Core2 Duo
 - ◆ メモリ : 1GB以上
 - ◆ モニタ : 1024 × 768 TrueColor (DPI設定 : 「通常サイズ」) 以上
 - ◆ ディスク容量 : 40GB 以上
 - ◆ マウス
 - ◆ キーボード
 - ◆ インタフェース*¹ : USB2.0 インタフェース*² (本体に標準装備されているもの)
ネットワークインタフェース (10Base-T、100Base-TX、1000Base-T)
- * 1 : スキャナの接続は、インタフェースにUSB2.0を使用することをお勧めします。
* 2 : USB2.0を標準装備したコンピュータでご使用してください。
※ 本ソフトをご使用いただく場合は、管理者ユーザでログインしてご利用ください。一般ユーザでは、一部の機能が制限されます。

第2章 セットアップ

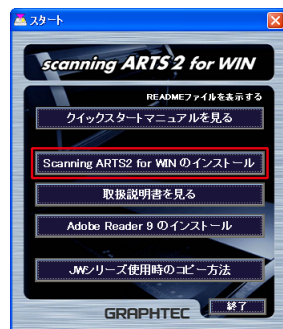
この章では、Scanning Arts 2 for WINのセットアップの方法を説明します。

2.1 Scanning Arts 2 for WINのインストール

2.1.1 「スタート」ウィンドウの起動

Scanning Arts 2 for WINのCDをコンピュータに入れると、以下の「スタート」ウィンドウが起動します。

起動しない場合は「マイコンピュータ」を開き、「CD ドライブ」をダブルクリックしてください。上記でも起動しない場合は、CD-ROMにある「S-ARTS2Setup.exe」を実行してください。



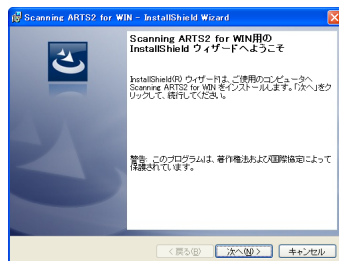
「スタート」が起動したら、「Scanning Arts 2 for WINのインストール」をクリックしてください。

2.1.2 Scanning Arts 2 for WINのインストール

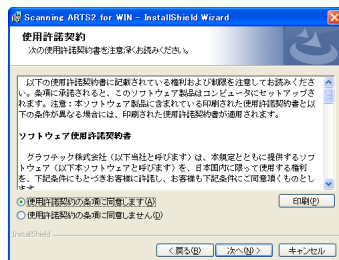
インストールの手順

(1) インストールプログラムが起動すると、以下の画面が表示されます。

【次へ】をクリックして、先に進みます。

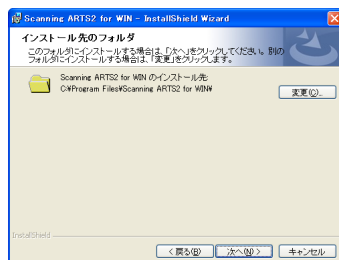


- (2) 「使用許諾契約」の画面が表示されます。



内容を確認して、このままインストールを続ける場合は、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して、【次へ】をクリックしてください。

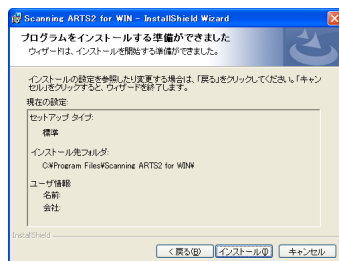
- (3) 「インストール先のフォルダ」の画面が表示されます。



インストールするフォルダを選択します。

デフォルトで表示されたフォルダの空き容量が少ない場合等を除いて、通常は変更する必要はありません。インストール先に変更がない場合は、【次へ】をクリックして先に進んでください。

- (4) 次に、「インストールの開始」の画面が表示されます。



そのまま【インストール】をクリックしてください。ファイルのコピーが始まります。

- (5) ファイルのコピーが終了すると、「セットアップの完了」画面が表示されます。



【完了】をクリックします。

これで、Scanning Arts 2 for WINのインストールは完了です。

第3章 Scanning Arts 2 for WINの使い方

この章では、Scanning Arts 2 for WINの起動～終了と画面構成について説明します。

3.1 Scanning Arts 2 for WINの起動と終了

起動

本ソフトウェアをインストールするとスタートメニューの「すべてのプログラム」に「Scanning Arts 2 for WIN」が追加されます。
「スタート」→「すべてのプログラム」→「Scanning Arts 2 for WIN」→「Scanning Arts 2 for WIN」をクリックしてソフトウェアを起動します。

終了

終了するときは、「モード選択」ウィンドウまたは各モード画面の左下にある「終了」ボタンを押してください。

3.2 Scanning Arts 2 for WINの画面構成

Scanning Arts 2 for WINの画面構成、各ボタンや表示の説明をします。

3.2.1 モード選択ウィンドウ

モード選択を行うウィンドウです。Scanning Arts 2 for WINを起動するとはじめに表示されます。
※モード.....Scanning Arts 2 for WINは「コピー」、「プリント」、「スキャン」の3つの機能があります。
この機能をそれぞれ「コピーモード」「プリントモード」「スキャンモード」と呼びます。

モード選択ウィンドウ



コピー

コピー
コピーモードウィンドウを表示します。

プリント

プリント
プリントモードウィンドウを表示します。

スキャン

スキャン
スキャンモードウィンドウを表示します。

ヘルプ

ヘルプ
ヘルプウィンドウを表示します。

設定

設定
設定ウィンドウを表示します。

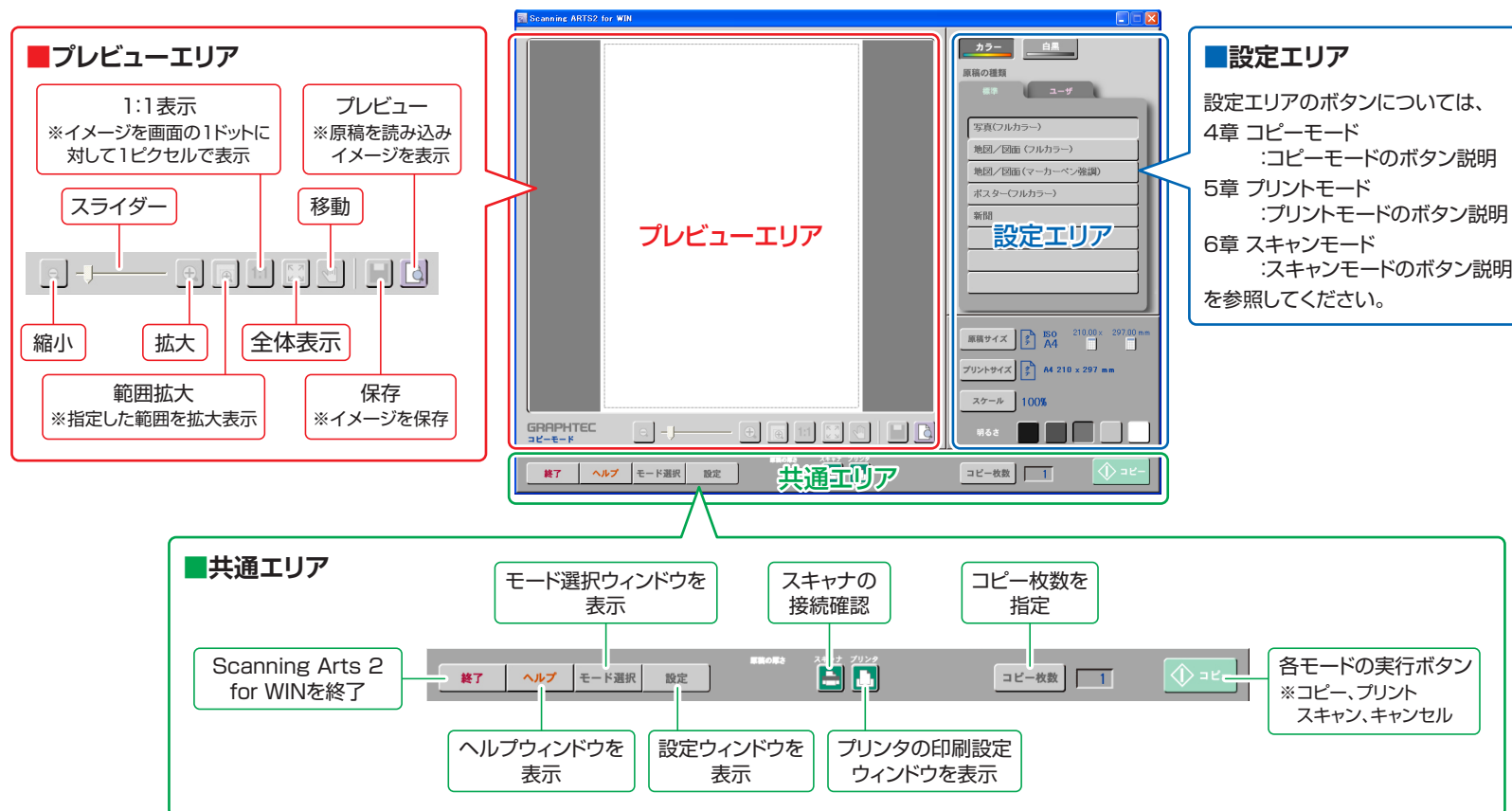
終了

終了
Scanning Arts 2 for WINを終了します。

3.2.2 メインウィンドウ

「モード選択」ウィンドウでモードを選択すると、選択したモードのメインウィンドウが表示されます。

メインウィンドウの構成は、コピーモード、スキャンモード、プリントモード共通で、「プレビューエリア」、「共通エリア」、「設定エリア」で構成されています。



3.2.2.1 共通エリア



各モード共通のボタンが配置されています。

※モードによって若干異なる部分があります。



(コピー、プリント、スキャン) / キャンセル

実行ボタンです。

ボタンの上に表示される文字は、モードによって異なります。

コピーモード コピー

プリントモード ... プリント

スキャンモード ... スキャン

実行ボタンを押すと、ボタン上の文字の表示が「キャンセル」に変わり、キャンセルボタンとなります。

※ 実行ボタンについて詳しくは、各モードの機能説明を参照してください。



コピー枚数

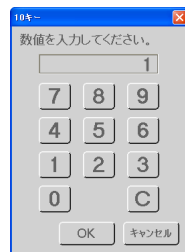
コピーモード、プリントモードのみ表示されます。

コピー枚数を指定します。

「コピー枚数」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウが表示されます。

数字ボタンを押して枚数を入力し、「OK」ボタンを押してください。

10キーウィンドウ



コピー枚数は、ご使用のプリンタで設定できる範囲の枚数が指定できます。

※ コピーモードの場合、制限サイズを超えるデータを出力すると、複数枚のコピーが行えなくなります。

この場合、一枚目の出力後「2枚目以降のプリントは、サイズ制限を越えたためできません」というメッセージが表示されます。

回避するには出力する長さを短くするか、印字品質を落としてください。



スキャナの接続確認

コピーモード、スキャンモードのみ表示されます。

ボタンを押すと、スキャナの接続確認をします。スキャナの状態はボタンの色で表示され、赤色表示の場合には、エラーメッセージが表示されます。

赤：スキャナが接続されていない、またはスキャナに原稿がセットされていない場合、赤色表示になります。

エラーメッセージに従って原因を解決してください。

※ スキャナが接続されていない場合は、以下の方法で確認してください。

パソコン本体とスキャナが正しく接続されていることを確認の上、スキャナボタンを押してください。

それでも赤色表示の場合は、スキャナのスイッチがONになっている事を確認し、Scanning Arts 2 for WINを終了してください。

コンピュータ本体の電源を一度OFFにし、再びコンピュータ本体の電源をONにしてください。その後、Scanning Arts 2 for WINを起動します。

緑：接続されています。

点滅 (オレンジ)：接続確認中です。

※ CS600/CS610シリーズをご使用の場合、スキャナの接続確認ボタンの左側に「原稿の厚さ」を表示します。



プリンタの印刷設定

コピーモード、プリントモードのみ表示されます。

ボタンを押すと、「設定」ウィンドウ→「プリンタ」タブの「プリンタ選択」で選択したプリンタドライバのプロパティウィンドウを表示します。

※ 「プリンタの印刷設定」アイコンは常に緑色です。

「スキャナの接続確認」アイコンのように、色で状態表示は行いません。

設定

設定

設定ウィンドウを表示します。

モード選択

モード選択

モード選択ウィンドウを表示します。

ヘルプ

ヘルプ

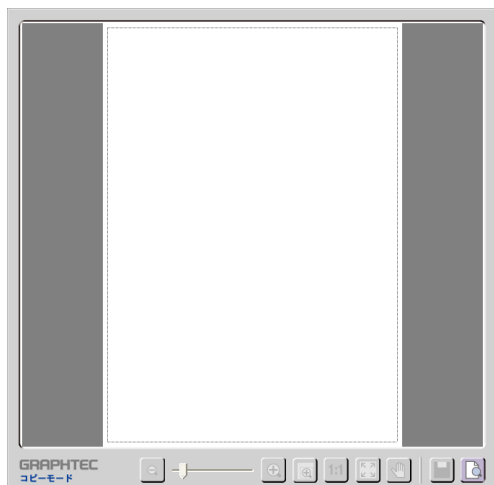
ヘルプウィンドウを表示します。

終了

終了

Scanning Arts 2 for WINを終了します。

3.2.2.2 プレビューエリア



プレビューエリアでは、表示したイメージ画像の表示サイズを変えたり、データを保存することができます。



プレビュー

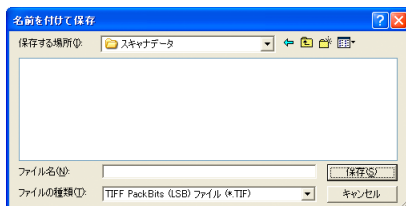
原稿の読み込みを行い、イメージをプレビューエリアに表示します。



保存

プレビューエリアに表示されているイメージデータをファイルに保存します。
イメージのサイズは、原稿サイズで指定したサイズになります。
「保存」ボタンを押すと、以下のどちらかのウィンドウを表示します。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされていない場合、Windowsの「名前を付けて保存」ウィンドウを表示します。



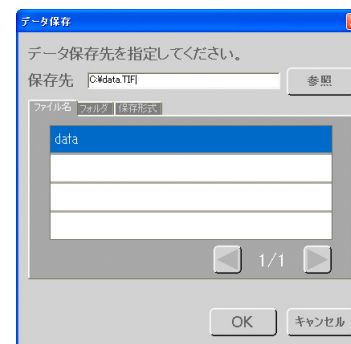
保存先の指定方法について

データの保存は以下の手順で行います。

- ① ファイル名を変更してイメージを保存する場合は、ファイル名ボックスの中に新しい名前を入力します。
- ② イメージを保存するドライブまたはフォルダを変更する場合は、「保存する場所」でドライブとフォルダを設定します。
- ③ イメージを保存するファイルフォーマットを変更する場合は、「ファイルの種類」リストから新しいフォーマットを選択します。
新しいファイルフォーマットの拡張子は、デフォルトの文字列に変更になります。

「保存」ボタンを押すと、イメージデータを保存します。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされている場合、以下の「データ保存」ウィンドウを表示します。



データ保存先の指定方法について

データの保存先は以下の3つの方法で指定することができます。

- ① 「保存先」に、キーボードから直接保存先を入力する。
- ② 「参照」ボタンを押して参照ダイアログを表示させ、フォルダを指定する。
- ③ ファイル名を「ファイル名」タブ、フォルダを「フォルダ」タブ、ファイル形式を「保存形式」タブからそれぞれ指定します。

※ 「ファイル名」タブ、「フォルダ」タブから指定するためには、事前にファイル名、フォルダを登録する必要があります。
「設定」ウィンドウ「ファイル」タブの「保存先ファイル名登録」ウィンドウ、「フォルダ登録」ウィンドウでファイル名、フォルダを登録してください。登録方法については、「第8章 設定ウィンドウ」の「8.4 ファイルタブ」を参照してください。

※ ②を選択した場合、保存先ファイル、保存形式の指定は①または③の方法で行ってください。

「OK」ボタンを押すと、プレビューウィンドウに表示されているイメージデータを保存します。

● ファイル名の生成を自動で行う

ファイルの末尾に半角数字が付いたファイルを指定すると、続けて保存しても上書きされずに、末尾の数字 + 1 のファイル名が自動的に生成されます。

ファイル名自動作成の流れ

- ① ファイル名の末尾に半角数字がついたファイルを指定します。

(例.: Sample001)

- ② 保存します。(Sample001 で保存されます。)

- ③ 次に保存するときには、ファイル名の末尾の半角数字に 1 を加えたファイル名が自動で作成されます。(例.: Sample002)

※ 桁上がりが起こる場合は、可能である場合は桁上がりします。桁上がりがない可能な場合は、桁あふれの起きた桁は 0 になります。
(Sample999 の次は、Sample000 になります。)



移動

イメージ画像をプレビューエリア上で自由に移動させるためのツールです。

● 移動の手順

- ① 「移動」ボタンを押し、マウスカーソルをプレビューウィンドウのイメージの上に移動させると、カーソルが手の形になります。

- ② イメージ画像上でクリックすると、イメージ画像を自由に移動させることができます。

※ ディスプレイにタッチパネルをご使用されている場合、指で同様の操作を行ってください。

※ 「移動」は、イメージを拡大した状態のときのみ使用できます。



全体表示

イメージ全体が表示できるようにイメージ画像を拡大／縮小して表示します。



1:1 表示

イメージ画像を、画面の 1 ドットに対して 1 ピクセルで表示します。



範囲拡大

指定した範囲を拡大表示します。

- ① ボタンを押し、カーソルをプレビューウィンドウのイメージの上に移動させるとカーソルが十字になります。

- ② ドラッグすると、点線の四角が描かれます。その範囲が拡大されます。



拡大

イメージ画像を、拡大して表示します。



縮小

イメージ画像を、縮小して表示します。

※ 「拡大」ボタンと「縮小」ボタンの間のスライダーを使用して倍率を変えることができます。右方向に動かすと拡大、左方向に動かすと縮小します。

3.2.2.3 設定エリア

設定エリアは、モードごとに用意された設定項目が表示されます。

モード別の設定項目については、

●コピーモード.....「第4章 原稿をコピーするには ～コピーモード～」
「4.2 コピーモードの機能」

●プリントモード.....「第5章 ファイルをプリントするには ～プリントモード～」
「5.2 プリントモードの機能」

●スキャンモード.....「第6章 スキャンしたデータを保存するには ～スキャンモード～」
「6.2 スキャンモードの機能」

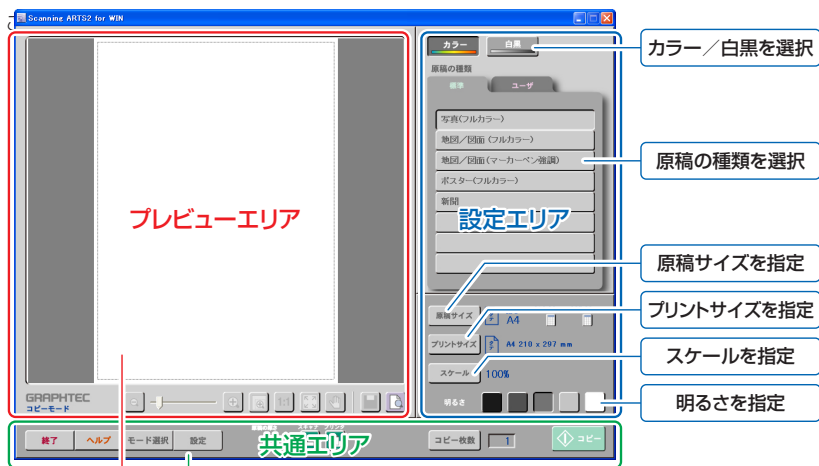
を参照してください。

第4章 原稿をコピーするには

～コピーモード～

原稿をコピーする前に

コピーを行う場合は、あらかじめスキャナやプリンタが接続されている必要があります。
詳しくは、「第8章 設定ウィンドウ」→「8.2 スキャナタブ」と「8.3 プリンタタブ」を参照してください。



「プレビューエリア」、「共通エリアのボタン」については、
「3.2.2 メインウィンドウ」のボタン説明を参照してください。

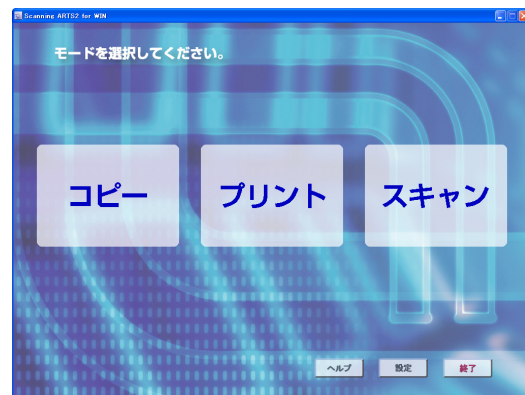
4.1 原稿をコピーする

原稿をコピーする場合の一連の手順は、以下の通りです。

- ① コピーモードを選択する
- ② スキャナに原稿をセットする
- ③ カラーコピーまたは白黒コピーを選択する
- ④ 原稿の種類を選択する
- ⑤ 原稿サイズを指定する
- ⑥ プリントサイズを指定する
- ⑦ スケールを指定する
- ⑧ 明るさを指定する
- ⑨ コピー枚数を指定する
- ⑩ 「コピー」ボタンを押す

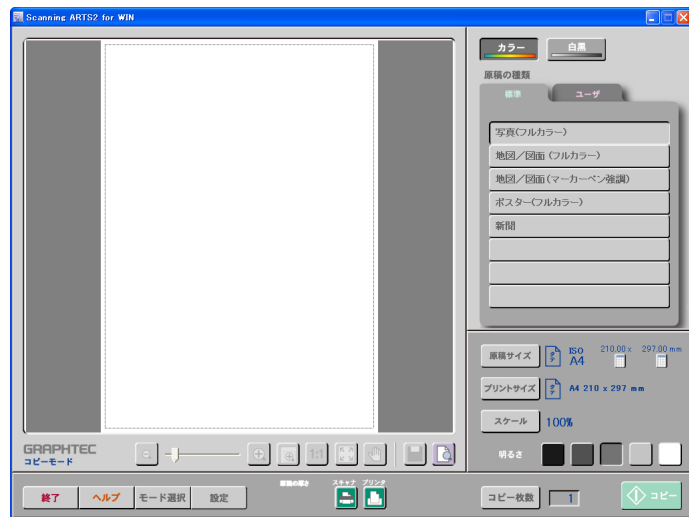
① コピーモードを選択する

モード選択ウィンドウ



「モード選択」ウィンドウで、「コピー」ボタンを押してください。

「コピーモード」ウィンドウが表示されます。



② スキャナに原稿をセットする

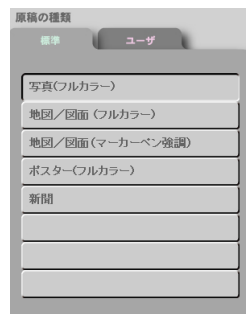
スキャナに、原稿を読み取る面を下にしてセットします。

③ カラーコピーまたは白黒コピーを選択する



④ 原稿の種類を選択する

「原稿の種類」の「標準」、「ユーザ」タブから、コピーする原稿のタイプを選択してください。



⑤ 原稿サイズを指定する



「原稿サイズ」ボタンを押すと、「原稿サイズ」ダイアログが表示されます。



原稿のサイズを指定して、「OK」ボタンを押してください。

⑥ プリントサイズを指定する



「プリントサイズ」ボタンを押すと、「プリントサイズ」ダイアログが表示されます。

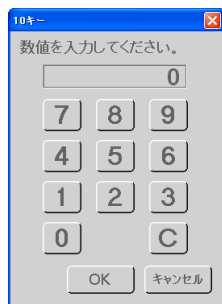


プリントサイズを指定して「OK」ボタンを押してください。

⑦ スケールを指定する



「スケール」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウが表示されます。



10キーウィンドウで数値を入力してください。
スケールの数値を入力して、「OK」ボタンを押してください。
設定値の範囲は25%～400%です。
スケールは、「原稿サイズ」と「プリントサイズ」を指定すると、プリントサイズにフィットされるように自動で計算された値が入ります。

⑧ 明るさを指定する

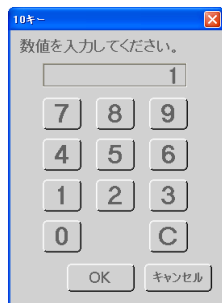


明るさをより明るくしたいときは右側のボタンを、より暗くしたいときは、左側のボタンを押してください。

⑨ コピー枚数を指定する



「コピー枚数」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウが表示されます。



10キーウィンドウで数値を入力してください。
コピーする枚数を入力して、「OK」ボタンを押してください。
コピー枚数は、ご使用のプリンタで設定できる範囲の枚数が指定できます。

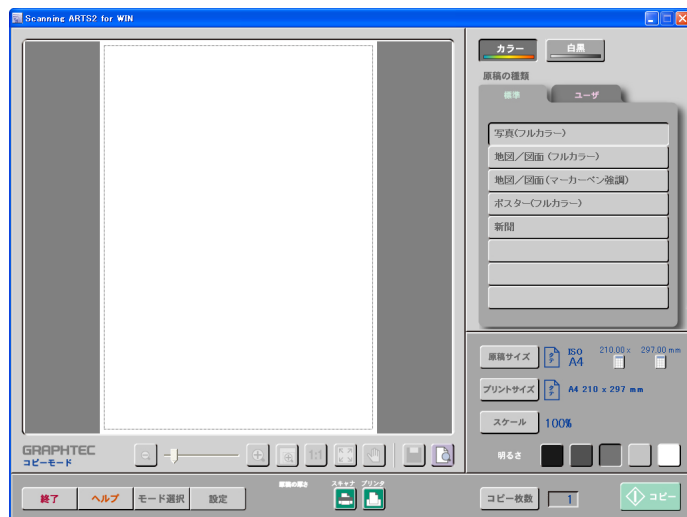
⑩ 「コピー」ボタンを押す



コピーを開始します。

- ※ スキャナに原稿がセットされていない場合は、「スキャナの準備ができていません。」または「スキャナが準備中です。」とエラーメッセージが表示されます。その場合は、スキャナに原稿をセットしてください。
- ※ プリンタにセットした用紙サイズよりプリントサイズが大きくないか確認します。
- ※ プリンタから出力される向きは、ご使用のプリンタドライバの回転設定で変わります。印刷の欠損や用紙の無駄が出ないようにプリンタドライバのプレビューなどで確認することをお勧めします。
- ※ コピーモード時の出力結果は、プリンタドライバの色調整機能により大きく変わります。出力結果に応じてプリンタドライバの色調整機能とスキャン設定を変更してください。

4.2 コピーモードの機能



ウィンドウ右側の設定エリアを中心に説明しています。
ウィンドウ左側のプレビューエリア、ウィンドウ下の共通エリアについては、「3.2 Scanning Arts 2 for WINの画面構成」を参照してください。

カラー／白黒



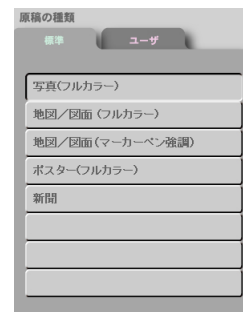
カラーでコピーを行うのか、白黒でコピーを行うのかを選択します。

カラー フルカラーが含まれます。

白黒 グレースケール、白黒が含まれます。

※カラー／白黒の選択によって、「原稿の種類」に表示される各項目の名称が変わります。

原稿の種類



読み込みを行う原稿のタイプを選択します。

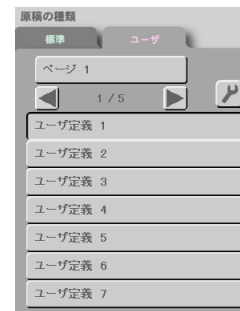
標準タブ 様々なタイプの原稿に対して推奨する設定が用意されています。

ユーザタブ ユーザ定義の「原稿の種類」を選択します。

設定可能なユーザ定義数

ユーザ定義は、白黒／カラーそれぞれ35個設定することができます。

※ ユーザ定義の作成方法について詳しくは、「第7章 原稿の種類」の「7.2 ユーザ定義の作成方法」を参照してください。

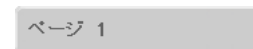


ページの切り替え

ユーザタブに一度に表示されるユーザ定義は7個で、これを1ページとします。

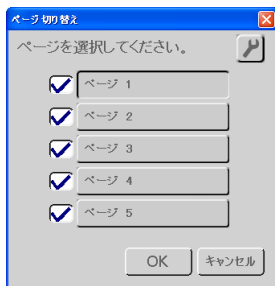
全部で5ページあります。

現在選択されているページの名前は、ユーザタブの一番上のボタンに表示されています。

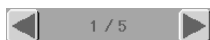


ページの切り替えは以下の2つの方法で行うことができます。

- 「ページ 1」ボタンを押して「ページ切り替え」ウィンドウを表示してください。表示するページのボタンを押し、「OK」ボタンを押すと、ユーザタブに選択したページが表示されます。



- ユーザタブの ◀ ボタンを押すと前のページに、▶ ボタンを押すと次のページに切り替えることができます。「ページ切り替え」ウィンドウでチェックがONになっているページ中、何ページ目が表示されているかが ◀ と ▶ ボタンの間に表示されます。



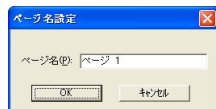
- ※ 「ページ切り替え」ウィンドウで、「ページ 1」ボタンの左隣のチェックボックスをOFFにすると、そのページは選択できなくなります。



またそのページは ◀、▶ ボタンでページを切り替える際、表示されません。チェックのONになっているページのみが表示されます。

ページの名前の変更

ページの名前は変更することができます。名前を変更する際は、「ページ切り替え」ウィンドウで任意の「ページ 1」ボタンを押した後、「設定」ボタンを押して「ページ名設定」ウィンドウを表示します。



名前を入力し、「OK」ボタンを押してください。

原稿サイズ

原稿サイズ

原稿サイズ

読み込みを行う原稿のサイズを選択します。

「原稿サイズ」ボタンを押すと、「原稿サイズ」ウィンドウを表示します。



サイズを選択し、「OK」ボタンを押してください。

選択可能な原稿サイズ(ウィンドウ左下には現在選択されている原稿サイズが表示されます)

ISO A A4～A0, A0 Carrier sheet, A1 Carrier sheet

JIS B B4～B0

ANSI A～E

ARCH A～E

DIN A4～A0

ユーザ ユーザ定義サイズは、1～10まで登録することができます。

ユーザ定義サイズはこのウィンドウからは設定できません。「第8章 設定ウィンドウ」→「8.1 全般タブ」の「ユーザ定義サイズ登録」→「原稿サイズ」を参照してください。

- ※ 選択可能な原稿サイズは、ご使用のスキャナの機種によります。

原稿サイズ表示にある 10 キーボタンを使って、原稿サイズの長さ、幅を変更することができます。



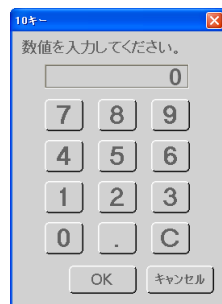
◆ 10キーボタンについて



10キー

10キーボタンは、「10キー」ウィンドウを表示させ、数値入力をするためのボタンです。

10キーウィンドウ



プリントサイズ



プリントサイズ

印刷を行うプリンタの用紙サイズを選択します。

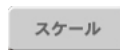
「プリントサイズ」ボタンを押すと、「プリントサイズ」ダイアログが表示されます。

※ 選択可能なプリントサイズは、ご使用のプリンタの機種によります。



プリントサイズを選択し、「OK」ボタンを押してください。

スケール

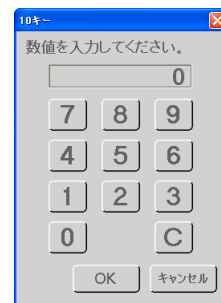


スケール

拡大縮小率を指定します。

「スケール」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウを表示します。

10キーウィンドウ



数字キーを押して入力し、「OK」ボタンを押してください。

設定値の範囲は25%～400%です。

※ 「原稿サイズ」、「プリントサイズ」を指定すると、スケールには自動的に、原稿サイズがプリントサイズにフィットするように計算された倍率が入ります。

明るさ



明るさ

明るさを変更します。

明るさは五段階の調節ができます。

右側のボタンを押すほど明るく、左側のボタンを押すほど暗くなります。

コピー



コピー

原稿のコピーを開始します。

- ※ スキャナに原稿がセットされていない場合は、「スキャナの準備ができていません。」または「スキャナが準備中です。」とエラーメッセージが表示されます。その場合は、スキャナに原稿をセットしてください。
- ※ コピーモードの場合、制限サイズを超えるデータを出力すると、複数枚のコピーが行えなくなります。この場合、一枚目の出力後「2枚目以降のプリントは、サイズ制限を越えたためできません」というメッセージが表示されます。
回避するには出力する長さを短くするか、印字品質を落としてください。
- ※ プリンタにセットした用紙サイズよりプリントサイズが大きくないか確認します。
- ※ プリンタから出力される向きは、ご使用のプリンタドライバの回転設定で変わります。印刷の欠損や用紙の無駄が出ないようにプリンタドライバのプレビューなどで確認することをお勧めします。
- ※ コピーモード時の出力結果は、プリンタドライバの色調整機能により大きく変わります。出力結果に応じてプリンタドライバの色調整機能とスキャン設定を変更してください。

4.3 こんなときには

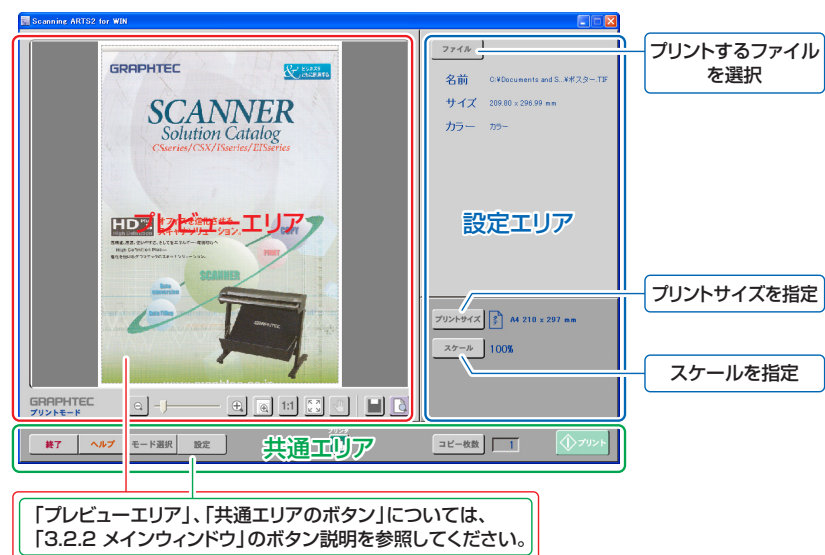
- 連続でコピーしたい
「第8章 設定ウィンドウ」→「8.1 全般タブ」の「連続でコピー／スキャンを行う」を参照してください。
- 色を明るくしたい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」を参照してください。
モノクロの原稿の場合
「7.3.2.1 原稿の種類 (白黒)」または「7.3.2.2 原稿の種類 (グレースケール)」の「色の調整」→「明るさ」
カラーの原稿の場合
「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「色の調整」→「明るさ (またはコントラスト)」を参照してください。
- 線をはっきりさせたい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「境界強調」を参照してください。
- 背景を白くしたい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「白ポイント」を参照してください。
- 指定した色を他の色に変えたい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「色の変更」を参照してください。
- 原稿の折り返し目を消したい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「折り返し目の軽減」を参照してください。
- スキャンしたデータに淡い縞模様状のものが現れる
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「モアレの除去」を参照してください。
- 原稿の小さなゴミを取りたい
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「自動ゴミ取り」を参照してください。

第5章 ファイルをプリントするには ～プリントモード～

ファイルをプリントする前に

プリントを行う場合は、あらかじめプリンタが接続されている必要があります。
詳しくは、「第8章 設定ウィンドウ」→「8.3 プリントタブ」を参照してください。

この章では、プリントモードの操作手順と、機能について説明します。



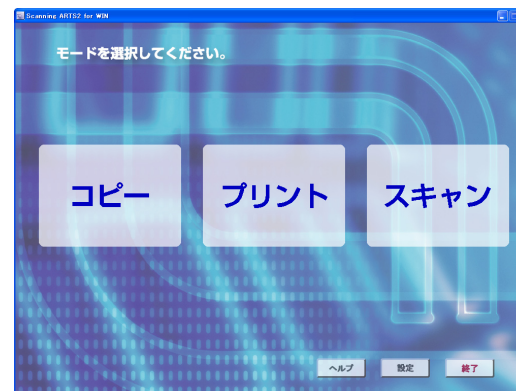
5.1 ファイルをプリントする

ファイルをプリントする場合の一連の手順は、以下の通りです。

- ① プリントモードを選択する
- ② ファイルを選択する
- ③ プリントサイズを選択する
- ④ スケールを指定する
- ⑤ コピー枚数を指定する
- ⑥ 「プリント」ボタンを押す

① プリントモードを選択する

モード選択ウィンドウ



「モード選択」ウィンドウで、「プリント」ボタンを押してください。

「プリントモード」ウィンドウが表示されます。

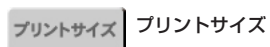


② ファイルを選択する



「ファイル」ボタンを押すと、「参照」ウィンドウが表示されます。
プリントするファイルを選択して、「開く」ボタンを押してください。

③ プリントサイズを選択する



「プリントサイズ」ボタンを押すと、「プリントサイズ」ダイアログが表示されます。

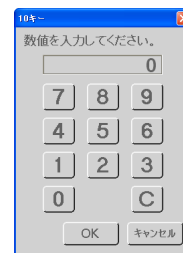


プリントサイズを指定して、「OK」ボタンを押してください。

④ スケールを指定する



「スケール」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウが表示されます。

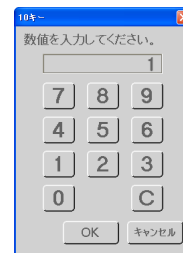


10キーウィンドウで数値を入力してください。
スケールの数値を入力して、「OK」ボタンを押してください。
設定値の範囲は、25～400%です。
ファイルを選択し、「プリントサイズ」を指定すると、スケールには自動的に、ファイルのサイズがプリントサイズにフィットするように計算された倍率が入ります。

⑤ コピー枚数を指定する



「コピー枚数」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウが表示されます。



10キーウィンドウで数値を入力してください。
コピーする枚数を入力して、「OK」ボタンを押してください。
コピー枚数は、ご使用のプリンタで設定できる範囲の枚数が指定できます。

⑥ 「プリント」ボタンを押す



印刷を開始します。

5.2 プリントモードの機能



ウィンドウ右側の設定エリアを中心に説明しています。
ウィンドウ左側のプレビューエリア、ウィンドウ下の共通エリアについて詳しくは、「3.2 Scanning Arts 2 for WINの画面構成」を参照してください。

ファイル



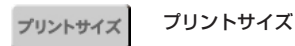
読み込みを行うイメージファイルを選択します。
「ファイル」ボタンを押すと、「参照」ダイアログが表示されます。そこでファイルを選択します。
ファイルを選択すると、ボタンの下側に、選択されたファイル名とイメージのサイズ出力するカラーが表示されます(ファイルが24ビットカラーまたは8ビットカラーの場合は「カラー」、グレースケールまたは白黒の場合は「白黒」と表示されます)。

※ [Shift] キーまたは [Ctrl] キーを押しながらファイルをクリックすると、複数のファイルを選択することができます。

複数のファイルを選択した場合、「ファイル」ボタンの隣に 矢印ボタンが表示されます。矢印ボタンをクリックすると、プレビューに表示するファイルや、「ファイル」ボタンの下に表示されるファイルの情報を切り替えることができます。

※ 読み込むことのできるファイル形式は、「ファイル形式について」を参照してください。

プリントサイズ



印刷を行うプリンタの用紙サイズを選択します。

「プリントサイズ」ボタンを押すと、「プリントサイズ」ダイアログが表示されます。

※ 選択可能なプリントサイズは、ご使用のプリンタの機種によります。



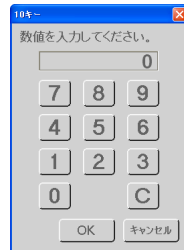
プリントサイズを選択し、「OK」ボタンを押してください。

スケール



拡大縮小率を指定します。
「スケール」ボタンを押すと、「10キー」ウィンドウを表示します。

10キーウィンドウ



数字キーを押して入力し、「OK」ボタンを押してください。

設定値の範囲は25～400%です。

※ ファイルを選択し、「プリントサイズ」を指定すると、スケールには自動的に、ファイルのサイズがプリントサイズにフィットするように計算された倍率が入ります。

プリント



ファイルのプリントを開始します。

第6章 スキャンしたデータを保存するには ～スキャンモード～

スキャンしたデータを保存する前に

スキャンを行う場合は、あらかじめスキヤナが接続されている必要があります。
詳しくは、「第8章 設定ウィンドウ」→「8.2 スキヤナタブ」を参照してください。

この章では、スキャンモードの操作手順と、機能について説明します。

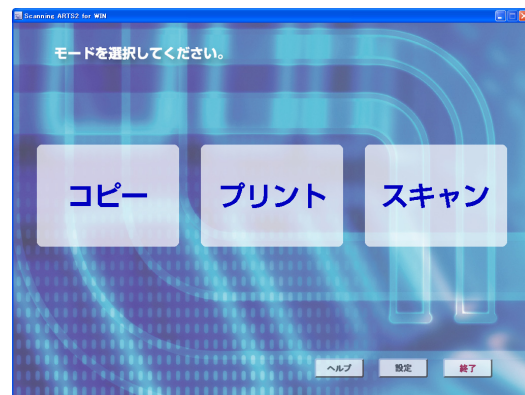


6.1 スキャンしたデータを保存する

原稿をスキャンし、データを保存する場合の一連の手順は、以下の通りです。

- ① スキャンモードを選択する
- ② スキヤナに原稿をセットする
- ③ カラー／白黒を選択する
- ④ 原稿の種類を選択する
- ⑤ 原稿サイズを選択する
- ⑥ 明るさを指定する
- ⑦ 「スキャン」ボタンを押す

- ① スキャンモードを選択する
モード選択ウィンドウ



スキャン

スキャン

「モード選択」ウィンドウで、「スキャン」ボタンを押してください。

「スキャンモード」ウィンドウが表示されます。



② スキャナに原稿をセットする

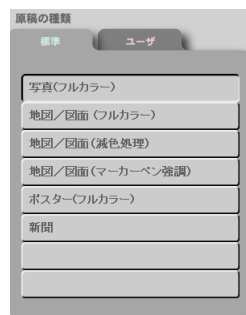
スキャナに、原稿を読み取る面を下にしてセットしてください。

③ カラー／白黒を選択する



④ 原稿の種類を選択する

「原稿の種類」の「標準」、「ユーザ」タブから、スキャンする原稿のタイプを選択してください。



⑤ 原稿サイズを選択する



「原稿サイズ」ボタンを押すと、「原稿サイズ」ダイアログが表示されます。



原稿のサイズを指定して、「OK」ボタンを押してください。

⑥ 明るさを指定する



明るさをより明るくしたいときは右側のボタンを、より暗くしたいときは、左側のボタンを押してください。

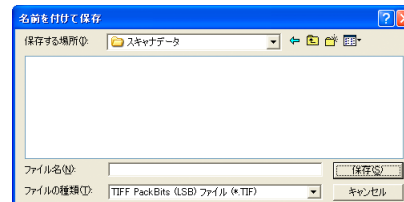
⑦ 「スキャン」ボタンを押す



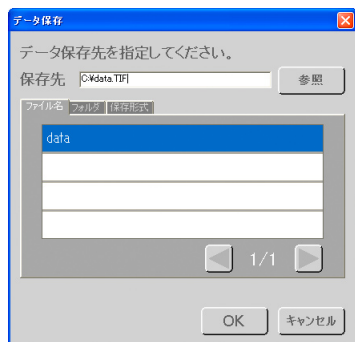
※ スキャナに原稿がセットされていない場合は、「スキャナの準備ができていません。」または「スキャナが準備中です。」とエラーメッセージが表示されます。その場合は、スキャナに原稿をセットしてください。

「スキャン」ボタンを押すと、以下のどちらかのウィンドウを表示します。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされていない場合、Windowsの「名前を付けて保存」ウィンドウを表示します。



- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされている場合、以下の「データ保存」ウィンドウを表示します。



スキャンしたイメージデータの保存先を指定して、「OK」ボタンを押してください。スキャン→保存を開始します。

- ※ スキャンの実行中に保存データが制限サイズを超えた場合、ファイルへの保存は行いません。この場合、スキャンは途中で終了し、「ファイルに保存できませんでした」というメッセージが表示されます。

6.2 スキャンモードの機能



ウィンドウ右側の設定エリアを中心に説明しています。

ウィンドウ左側のプレビューエリア、ウィンドウ下の共通エリアについて詳しくは、「3.2 Scanning Arts 2 for WINの画面構成」を参照してください。

カラー／白黒



カラー／白黒

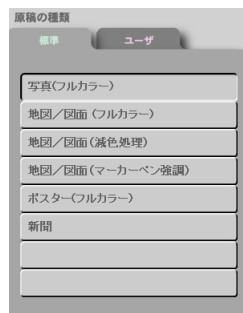
原稿をカラーで読み込むか、白黒で読み込むかを選択します。

カラー フルカラー、減色処理が含まれます。

白黒 グレースケール、白黒が含まれます。

- ※ カラー／白黒の選択によって、「原稿の種類」に表示される各項目の名称が変わります。

原稿の種類



読み込みを行う原稿のタイプを選択します。

標準タブ様々なタイプの原稿に対して推奨する設定が用意されています。

ユーザタブユーザ定義の「原稿の種類」を選択します。

設定可能なユーザ定義数

ユーザ定義は、白黒／カラーそれぞれ35個設定することができます。

※ ユーザ定義の作成方法について詳しくは、「第7章 原稿の種類」の「7.2 ユーザ定義の作成方法」を参照してください。



ページの切り替え

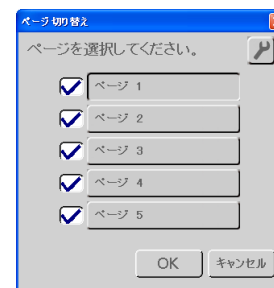
ユーザタブに一度に表示されるユーザ定義は7個で、これを1ページとします。全部で5ページあります。

現在選択されているページの名前は、ユーザタブの一番上のボタンに表示されています。



ページの切り替えは以下の2つの方法で行うことができます。

- ページ 1 ボタンを押して「ページ切り替え」ウィンドウを表示してください。表示するページのボタンを押し、「OK」ボタンを押すと、ユーザタブに選択したページが表示されます。



- ユーザタブの ◀ ボタンを押すと前のページに、 ▶ ボタンを押すと次のページに切り替えることができます。「ページ切り替え」ウィンドウでチェックがONになっているページ中、何ページ目が表示されているかが ◀ と ▶ ボタンの間に表示されます。



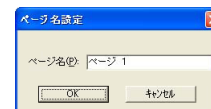
※「ページ切り替え」ウィンドウで、ページ 1 ボタンの左隣のチェックボックスをOFFにすると、そのページは選択できなくなります。



またそのページは、◀、▶ ボタンでページを切り替える際、表示されません。チェックのONになっているページのみが表示されます。

ページの名前の変更

ページの名前は変更することができます。名前を変更する際は、「ページ切り替え」ウィンドウで任意の ページ 1 ボタンを押した後、「設定」 ⚙️ ボタンを押して「ページ名設定」ウィンドウを表示します。



名前を入力し、「OK」ボタンを押してください。

原稿サイズ

原稿サイズ

原稿サイズ

読み込みを行う原稿のサイズを選択します。

「原稿サイズ」ボタンを押すと、「原稿サイズ」ウィンドウを表示します。



サイズを選択し、「OK」ボタンを押してください。

選択可能な原稿サイズ (ウィンドウ左下には現在選択されている原稿サイズが表示されます)

ISO A A4～A0、A0 Carrier sheet、A1 Carrier sheet

JIS B B4～B0

ANSI A～E

ARCH A～E

DIN A4～A0

ユーザ ユーザ定義サイズは、1～10まで登録することができます。

ユーザ定義サイズはこのウィンドウからは設定できません。「第8章 設定ウィンドウ」→「8.1 全般タブ」の「ユーザ定義サイズ登録」→「原稿サイズ」を参照してください。

※ 選択可能な原稿サイズは、ご使用のスキヤナの機種によります。

自動長さ検出 「自動長さ検出」にチェックを入れると、読み込み時に原稿の長さを自動で検出します。このとき幅は、指定した原稿サイズの幅となります。



「自動長さ検出」が選択されている間は、メインウィンドウの原稿サイズの長さの表示の上部に「自動」と表示されます。

読み込み終了後、長さの表示は、実際に読み込んだ長さに更新されます。



原稿サイズ表示にある 10 キーボタンを使って、原稿サイズの長さ、幅を変更することができます。



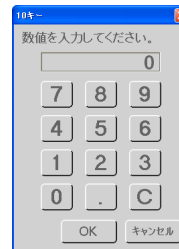
◆ 10 キーボタンについて



10 キー

10 キーボタンは、「10 キー」ウィンドウを表示させ、数値入力をするためのボタンです。

10 キーウィンドウ



明るさ



明るさを変更します。

明るさは五段階の調節ができます。

右側のボタンを押すほど明るく、左側のボタンを押すほど暗くなります。

スキャン



スキャン

原稿をスキャンし、データ保存を行います。

※ スキャナに原稿がセットされていない場合は、「スキャナの準備ができていません。」または「スキャナが準備中です。」とエラーメッセージが表示されます。その場合は、スキャナに原稿をセットしてください。

「スキャン」ボタンを押すと、以下のどちらかのウィンドウを表示します。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされていない場合、Windows の「名前を付けて保存」ウィンドウを表示します。



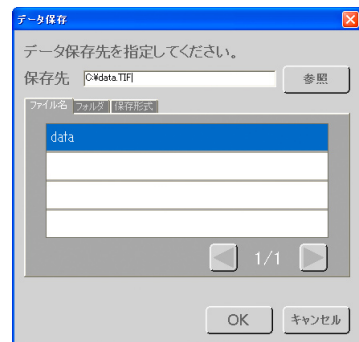
保存先の指定方法について

データ保存は以下の手順で行います。

- ① ファイル名を変更してイメージを保存する場合は、ファイル名ボックスの中に新しい名前を入力します。
- ② イメージを保存するドライブまたはフォルダを変更する場合は、「保存する場所」でドライブとフォルダを設定します。
- ③ イメージを保存するファイルフォーマットを変更する場合は、「ファイルの種類」リストから新しいフォーマットを選択します。

新しいファイルフォーマットの拡張子は、デフォルトの文字列に変更になります。
保存先を指定して、「保存」ボタンを押してください。読み込み→保存を開始します。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされている場合、以下の「データ保存」ウィンドウを表示します。



データ保存先の指定方法について

データ保存先は以下の3つの方法で指定することができます。

- ① 「保存先」に、キーボードから直接保存先を入力する。
 - ② 参照ボタンを押して参照ダイアログを表示させ、フォルダを指定する。
 - ③ ファイル名を「ファイル名」タブ、フォルダを「フォルダ」タブ、ファイル形式を「保存形式」タブからそれぞれ指定します。
- ※ 「ファイル名」タブ、「フォルダ」タブから指定するためには、事前にファイル名、フォルダを登録する必要があります。
- 「設定」ウィンドウ「ファイル」タブの「保存先ファイル名登録」ウィンドウ、「保存先フォルダ登録」ウィンドウでファイル名、フォルダを登録してください。登録方法について詳しくは、「第8章 設定ウィンドウ」の「8.4 ファイルタブ」を参照してください。
- ※ ②を選択した場合、保存先ファイル、保存形式の指定は①または③の方法で行ってください。
- データ保存先を指定して、「OK」ボタンを押してください。読み込み→保存を開始します。
- ※ スキャンの実行中に保存データが制限サイズを超えた場合、ファイルへの保存は行いません。この場合、スキャンは途中で終了し、「ファイルに保存できませんでした」というメッセージが表示されます。

6.3 こんなときには

- **連続でスキャンしたい**
「第8章 設定ウィンドウ」→「8.1 全般タブ」の「連続でコピー／スキャンを行う」を参照してください。
- **色を明るくしたい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」を参照してください。
モノクロの原稿の場合
「7.3.2.1 原稿の種類 (白黒)」または「7.3.2.2 原稿の種類 (グレースケール)」の「色の調整」→「明るさ」
カラーの原稿の場合
「7.3.2.3 原稿の種類 (減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「色の調整」→「明るさ (またはコントラスト)」を参照してください。
- **線をはっきりさせたい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「境界強調」を参照してください。
- **背景を白くしたい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「白ポイント」を参照してください。
- **指定した色を他の色に変えたい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類 (減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「色の変更」を参照してください。
- **原稿の折りを消したい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類 (減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「折りの軽減」を参照してください。
- **スキャンしたデータに淡い編模様状のものが現れる**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類 (減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類 (フルカラー)」の「モアレの除去」を参照してください。
- **原稿の小さなゴミを取りたい**
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「自動ゴミ取り」を参照してください。

第7章 「原稿の種類」ユーザ定義を作成する

「原稿の種類」－「標準」タブには、原稿のタイプごとに推奨するスキャン設定が用意されています。「標準」タブにない種類の原稿を使用する場合や、原稿に最適な設定を行う場合は、ユーザ定義を作成します。

「原稿の種類」－「ユーザ」タブを選択すると「ユーザ定義 1」～「ユーザ定義 7」と表示されます。任意のユーザ定義を選択し、「スパナ」ボタンを押すとユーザ定義設定が行えます。



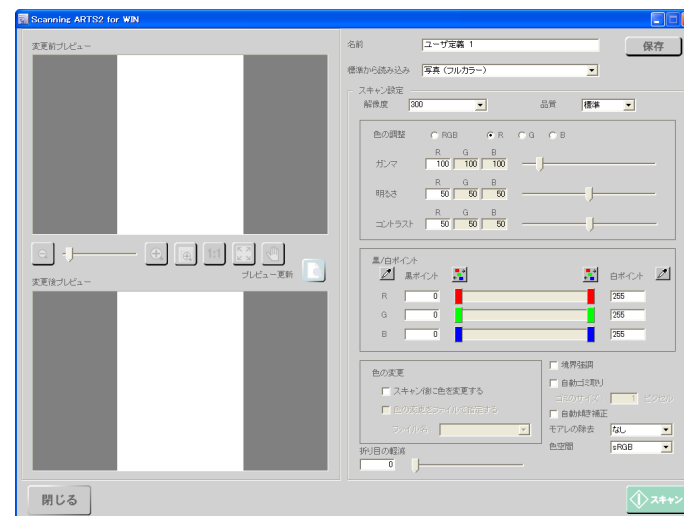
ここでは、以下について説明します。

- 原稿の種類設定ウィンドウの構成 (7.1 章)
- ユーザ定義の作成方法 (7.2 章)
- 設定項目の詳細 (7.3 章)
- 色の変更ウィンドウ (7.4 章)

7.1 原稿の種類設定ウィンドウの構成

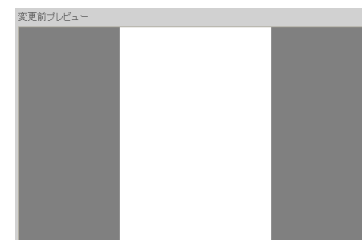
「原稿の種類設定」ウィンドウの画面構成について説明します。

このウィンドウは、プレビュー部分(左側)と設定部分(右側)の2つの画面から構成されています。



プレビュー部分(左側)

変更前プレビュー



設定値を変更する前のイメージを表示します。

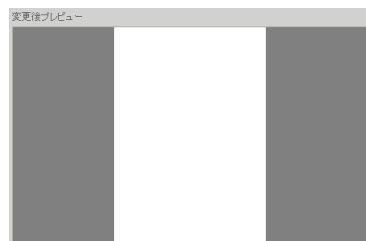
プレビュー更新



プレビュー更新

「プレビュー更新」を押すと、「变更后プレビュー」が更新されます。

変更後プレビュー



設定値を変更した後のイメージを表示します。

閉じる

閉じる

閉じる

「原稿の種類設定」ウィンドウを閉じます。

◆設定部分(右側)

名前

名前 ユーザ定義 1

名前

現在選択されているユーザ定義名を表示します。ユーザ定義は名前を変更することができます。「名前」にキーボードで直接新しい名前を入力してください。

保存

保存

保存

作成したユーザ定義の設定内容を保存します。

保存したユーザ定義は、メイン画面の「原稿の種類」-「ユーザ」タブで選択することができます。

標準から読み込み

標準から読み込み 写真(フルカラー)

標準から読み込み

「原稿の種類」の「標準」タブに用意された原稿の種類の設定内容を読み込みます。リストから、読み込みをする原稿の種類を選択してください。

デフォルトの「原稿の種類」の設定内容を少し変えたユーザ定義を作成する場合などに使用します。

※「標準から読み込み」のリストに表示される原稿の種類は、各モードのメインウィンドウで「カラー」、「白黒」のどちらが選択されているかにより異なります。

スキャン設定



原稿をスキャンする条件を設定します。

「スキャン設定」に表示される設定項目は、「標準から読み込み」で選択されている原稿の種類により異なります。

※設定項目について詳しくは、「7.3 設定項目の詳細」を参照してください。

スキャン

スキャン

スキャン

原稿をスキャンし、「変更前プレビュー」、「変更後プレビュー」の両方にイメージを表示します。

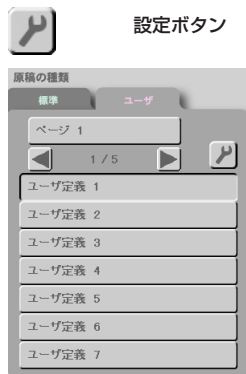
7.2 ユーザ定義の作成方法

ユーザ定義を作成する場合の一連の手順は、以下の通りです。

- ① 「原稿の種類設定」ウィンドウを表示させる
- ② 「標準」タブの原稿の種類の設定値を読み込む
- ③ 原稿をスキャンする
- ④ 設定値を変更する
- ⑤ 変更内容を保存する

① 「原稿の種類設定」ウィンドウを表示させる

「原稿の種類」－「ユーザ」タブの「ユーザ1～7」ボタンから任意のボタンを選択し、「スパナ」ボタンを押すと「原稿の種類設定」ウィンドウを表示します。



② 「標準」タブの原稿の種類の設定値を読み込む

「標準」タブに用意された原稿の種類の設定をもとに設定値の変更を行う場合は、「標準から読み込み」のリストボックスから、読み込みをする原稿の種類を選択してください。



③ 原稿をスキャンする

「変更前プレビュー」、「変更後プレビュー」にイメージが表示されていない場合は、「スキャン」ボタンを押して原稿をスキャンしてください。



④ 設定値を変更する

「スキャン設定」の各項目の設定値を変えて、原稿に最適な設定を行います。変更した結果は、「変更後プレビュー」に表示されます。プレビューを更新するには、「プレビュー更新」ボタンを押してください。



プレビュー更新

※ 設定項目についての詳細は、「7.3 設定項目の詳細」を参照してください。

⑤ 変更内容を保存する

「保存」ボタンを押すと、「名前」に表示された名前で、作成したユーザ定義を保存します。名前は変更することができます。



保存

7.3 設定項目の詳細

ここでは、「スキャン設定」の設定項目の詳細を説明します。

7.3.1 共通の項目

「スキャン設定」に常に表示される項目です。

解像度

解像度 600 解像度

原稿の読み込みを行う解像度を設定します。

品質

品質 高品質 品質

読み込みを行う品質を設定します。

※ ご使用のスキャナの機種により、選択できる品質は異なります。

7.3.2 スキャン設定

「スキャン設定」に表示される各項目は、「標準から読み込み」で選択されている原稿の種類により異なります。

以下の項目が選択されている場合は、「7.3.2.1 原稿の種類(白黒)」を参照してください。

- 「地図／図面(白黒)」
- 「薄い青焼き図面(白黒)」
- 「濃い青焼き図面(白黒)」
- 「新聞」

以下の項目が選択されている場合は、「7.3.2.2 原稿の種類(グレースケール)」を参照してください。

- 「地図／図面(グレースケール)」
- 「ポスター(グレースケール)」
- 「写真(グレースケール)」

以下の項目が選択されている場合は、「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」を参照してください。

- 「地図／図面(減色処理)」

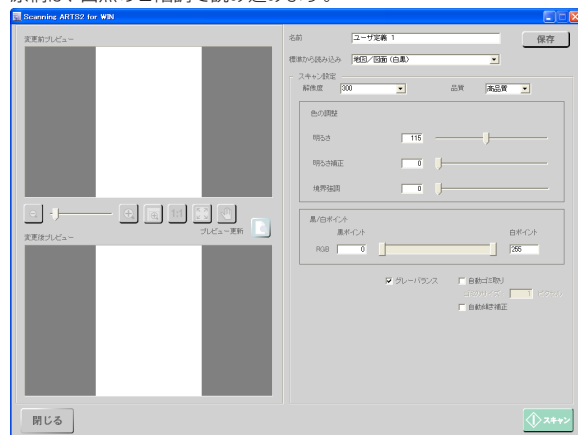
以下の項目が選択されている場合は、「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」を参照してください。

- 「写真フルカラー」
- 「地図／図面(フルカラー)」
- 「地図／図面(マーカーペン強調)」
- 「ポスター(フルカラー)」
- 「新聞」

7.3.2.1 原稿の種類(白黒)

白黒には、「地図／図面(白黒)」、「薄い青焼き図面(白黒)」、「濃い青焼き図面(白黒)」、「新聞」があります。

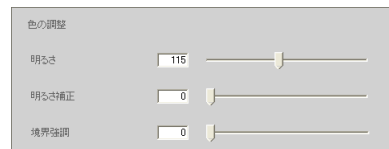
原稿は、白黒の2階調で読み込みます。



色の調整

調整は、「明るさ」→「明るさ補正」→「境界強調」の順で行います。

- ① はじめに、イメージの明るさを調整します。
- ② 次に、原稿に濃淡が多い場合、「明るさ補正」で濃淡をなくし、はっきりとしたイメージにします。
- ③ 「明るさ補正」をした際に発生したノイズを取り除き、細線や文字をはっきりさせるため「境界強調」を調整します。



- スライダーでの調整



スライダーを使用します。スライダーの右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

- キーボードからの入力

115

キーボードから入力します。

明るさ

イメージの明るさを指定します。

設定値の範囲 1 ～ 255

設定値の入力 キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果 明るいイメージにする場合→大きい値を指定してください。
暗いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

明るさ補正

濃淡のある原稿（グレーの部分が多い原稿）をはっきりさせるための補正度具合を指定します。

設定値の範囲 0 ～ 100

設定値の入力 キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果 数値が0の場合は、「明るさ」だけが有効です。
数値が大きいほど濃淡のある原稿をはっきりさせる効果が大きくなりますが、
数値を大きくしすぎるとノイズやゴミが発生しやすくなります。

境界強調

線や文字をはっきりさせます。

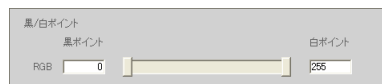
設定値の範囲 0 ～ 100

設定値の入力 キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果 数値を大きくすると、細線、文字などがはっきりとしてきますが、大きくしすぎると、白黒のデータの境目にノイズやゴミが発生しやすくなります。

黒／白ポイント

黒ポイントと白ポイントの値を指定します。



黒ポイント

設定値の範囲 0 ～ 254

効果 イメージの背景をより黒くしたい場合に使用します。

黒ポイントは、イメージを黒として読み込む基準を設定します。
黒ポイントを設定すると、0から設定した値までの色は全て黒として読み込みます。より黒くする場合は大きい値を指定してください。
黒くなり過ぎた場合は小さい値を設定してください。

白ポイント

設定値の範囲 1 ～ 255

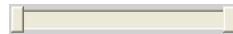
効果 イメージの背景をより白くしたい場合に使用します。

白ポイントは、イメージを白として読み込む基準を設定します。
白ポイントを設定すると、設定した値から255までの色は全て白として読み込みます。
より白くする場合は小さい値を指定してください。
白くなり過ぎた場合は大きい値を設定してください。

黒／白ポイントの設定値の入力

値を設定するには、スライダーでの調整、キーボードからの入力の二つの方法があります。

● スライダーでの調整



二つのつまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。
左のスライダーは黒ポイントの値を指定します。
右のスライダーは白ポイントの値を設定します。

● キーボードからの入力



黒ポイントの値は「黒ポイント」表示の下に入力します。
白ポイントの値は「白ポイント」表示の下に入力します。

グレーバランス

☒ グレーバランス

RGBの3色を使って原稿をスキャンします。
青色や黄色が目立つようになります。
方眼紙のマス目を読み取る場合などに使用してください。
※ スキャナがCSX300/510/530/550の場合に指定できます。

自動ゴミ取り



原稿の読み取りと同時に指定した大きさのゴミ取りを行います。
ゴミ イメージ上でゴミのように見える小さな点などを指します。

ゴミのサイズ



「自動ゴミ取り」で除去するゴミの大きさを設定します。
設定値の範囲 1 ～ 30ピクセル（1ピクセル単位で設定できます。）

自動傾き補正

☐ 自動傾き補正

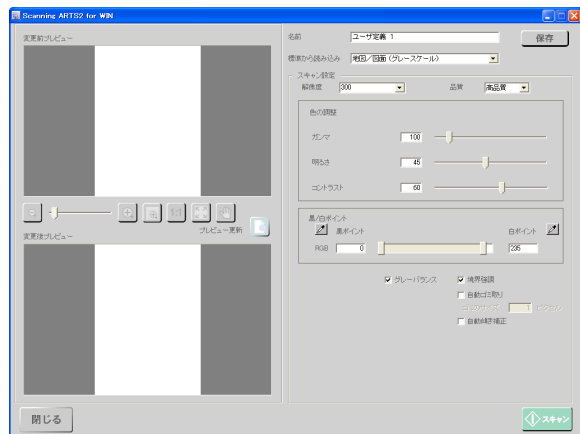
スキャナが原稿を傾いた状態で読み取った場合、自動的に傾いたイメージの補正を行います。
最大で±7.1°の傾きまで自動補正します。

※ 原稿の材質によっては、期待する結果にならない場合があります。

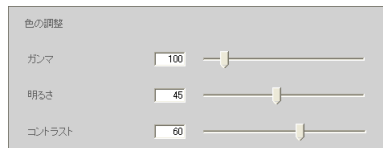
7.3.2.2 原稿の種類(グレースケール)

グレースケールには、「地図／図面(グレースケール)」、「ポスター(グレースケール)」、「写真(グレースケール)」があります。

原稿は、256階調のグレースケール(8ビットイメージ)として読み込みます。



色の調整



● スライダーでの調整



スライダーは、右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

● キーボードからの入力

100

キーボードから入力します。

ガンマ

イメージのガンマ(中間調の明るさ)を調整します。

イメージの明るさを調整する際、「明るさ」を調整するとイメージ全体の明るさが同時に変化するため、イメージの明るい部分が白く飛んでしまったり、暗い部分が黒くなりすぎる場合があります。イメージ全体の明暗の中間の部分の明るさのみを変える場合に「ガンマ」を調整してください。

設定値の範囲50～500

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果大きい値を指定すると中間調部分が明るいイメージとして読み込まれます。

明るさ

イメージの明るさを指定します。

設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果明るいイメージにする場合→大きい値を指定してください。
暗いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

コントラスト

イメージの濃淡(色の濃さ)を調整します。

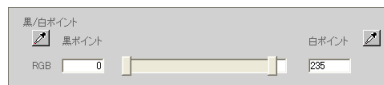
設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果濃淡の濃いイメージにする場合→大きい値を指定してください。
淡いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

黒／白ポイント

黒ポイントと白ポイントの値を指定します。



黒ポイント

設定値の範囲0～254

効果イメージの背景をより黒くしたい場合に使用します。

黒ポイントは、イメージを黒として読み込む基準を設定します。

黒ポイントを設定すると、0から設定した値までの色は全て黒として読み込みます。

より黒くする場合は大きい値を指定してください。

黒くなり過ぎた場合は小さい値を設定してください。

白ポイント

設定値の範囲1～255

効果イメージの背景をより白くしたい場合に使用します。

白ポイントは、イメージを白として読み込む基準を設定します。

白ポイントを設定すると、設定した値から255までの色は全て白として読み込みます。

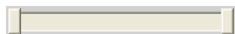
より白くする場合は小さい値を指定してください。

白くなり過ぎた場合は大きい値を設定してください。

黒／白ポイントの設定値の入力

値を設定するには、スライダーでの調整、キーボードからの入力、スポイトの使用の三つの方法があります。

● スライダーでの調整



二つのつまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

左のスライダーは黒ポイントの値を指定します。

右のスライダーは白ポイントの値を設定します。

● キーボードからの入力



黒ポイントの値は「黒ポイント」表示の下に入力します。

白ポイントの値は「白ポイント」表示の下に入力します。

● 「スポイト」の使用



「スポイト」ボタンは、プレビューウィンドウにイメージが表示されている場合に使用できます。

黒ポイントを設定する場合

左側のボタンは黒ポイント用のスポイトです。

ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が黒ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番明るい色が黒ポイントに設定されます。

白ポイントを設定する場合

右側のボタンは白ポイント用のスポイトです。

ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が白ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番暗い色が白ポイントに設定されます。

グレーバランス



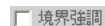
RGBの3色を使って原稿をスキャンします。

青色や黄色が目立つようになります。

方眼紙のマス目を読み取る場合などに使用してください。

※ スキャナがCSX300/510/530/550の場合に指定できます。

境界強調



背景とデータとの境界を鮮明にします。

※高解像度で読み込んだ場合、背景のゴミが多くなることがありますので、そのときにはオフにしてください。

自動ゴミ取り



ゴミのサイズ: ピクセル

原稿の読み取りと同時に指定した大きさのゴミ取りを行います。

ゴミ.....イメージ上でゴミのように見える小さな点などを指します。

ゴミのサイズ



ゴミのサイズ: ピクセル

「自動ゴミ取り」で除去するゴミの大きさを設定します。

設定値の範囲 1 ～ 30 ピクセル (1 ピクセル単位で設定できます。)

自動傾き補正



スキャナが原稿を傾いた状態で読み取った場合、自動的に傾いたイメージの補正を行います。

最大で±7.1°の傾きまで自動補正します。

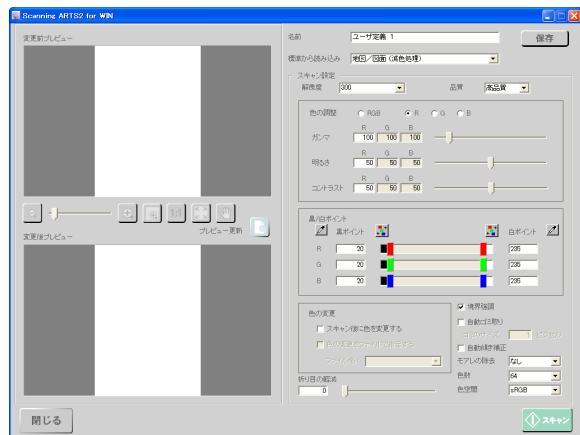
※ 原稿の材質によっては、期待する結果にならない場合があります。

7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)

減色処理には、「地図／図面(減色処理)」があります。

原稿は、8ビットカラーイメージとして読み込みます。

※「地図／図面(減色処理)」は、スキャンモードから「原稿の種類作成」ウィンドウを表示させた場合のみ選択可能です。



色の調整

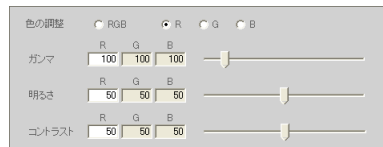
イメージの色を調整します。

RGBを選択するとR(赤)、G(緑)、B(青)の値を一括で設定できます。

Rを選択するとR(赤)の値を個別に設定できます。

Gを選択するとG(緑)の値を個別に設定できます。

Bを選択するとB(青)の値を個別に設定できます。



● スライダーでの調整



つまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

● キーボードからの入力



キーボードから入力します。

ガンマ

イメージのガンマ(中間調の明るさ)を調整します。

イメージの明るさを調整する際、「明るさ」を調整するとイメージ全体の明るさが同時に変化するため、イメージの明るい部分が白く飛んでしまったり、暗い部分が黒くなりすぎる場合があります。イメージ全体の明暗の中間の部分の明るさのみを変える場合に「ガンマ」を調整してください。

設定値の範囲50～500

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果大きい値を指定すると中間調部分が明るいイメージとして読み込まれます。

明るさ

イメージの明るさを指定します。

設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果明るいイメージにする場合→大きい値を指定してください。
暗いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

コントラスト

イメージの濃淡(色の濃さ)を調整します。

設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

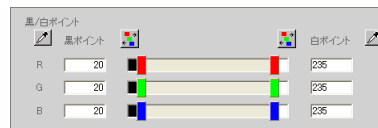
効果濃淡の濃いイメージにする場合→大きい値を指定してください。
淡いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

ガンマ、明るさ、コントラストの設定について

ガンマ、明るさ、コントラストは、R(赤)、G(緑)、B(青)を共通または個別に設定することができます。

黒／白ポイント

黒ポイントと白ポイントの値を指定します。



黒ポイント

設定値の範囲0～254

効果イメージの背景をより黒くしたい場合に使用します。

黒ポイントは、イメージを黒として読み込む基準を設定します。

黒ポイントを設定すると、0から設定した値までの色は全て黒として読み込みます。

より黒くする場合は大きい値を指定してください。

黒くなり過ぎた場合は小さい値を設定してください。

白ポイント

設定値の範囲 1 ～ 255

効果 イメージの背景をより白くしたい場合に使用します。

白ポイントは、イメージを白として読み込む基準を設定します。

白ポイントを設定すると、設定した値から255までの色は全て白として読み込みます。

より白くする場合は小さい値を指定してください。

白くなり過ぎた場合は大きい値を設定してください。

黒／白ポイントの設定について

8ビットカラー／24ビットカラーでは、「黒／白ポイント」はR(赤)、G(緑)、B(青)別に設定することができます。

黒／白ポイントの設定値の入力

値を設定するには、スライダーでの調整、キーボードからの入力、スポイトの使用の三つの方法があります。

● スライダーでの調整



二つのつまみが付いたスライダーを使用します。スライダーの右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

左のつまみは黒ポイントの値を指定します。

右のつまみは白ポイントの値を設定します。

※ R(赤)、G(緑)、B(青)を同じ値に設定する場合は、 ボタンを押すと、R(赤)、G(緑)、B(青)のつまみを同時に動かせるようになります。



黒ポイントの値をRGB全て同じ値に設定する場合は、左の ボタンを押して設定してください。

白ポイントの値をRGB全て同じ値に設定する場合は、右の ボタンを押して設定してください。

● キーボードからの入力



黒ポイントの値は「黒ポイント」表示の下に入力します。

白ポイントの値は「白ポイント」表示の下に入力します。

● 「スポイト」の使用



ボタンは、プレビューウィンドウにイメージが表示されている場合に使用できます。

黒ポイントを設定する場合

左側の ボタンは黒ポイント用のスポイトです。

ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が黒ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番明るい色が黒ポイントに設定されます。

白ポイントを設定する場合

右側の ボタンは白ポイント用のスポイトです。

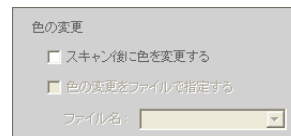
ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が白ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番暗い色が白ポイントに設定されます。

色の変更

イメージの色を編集することができます。

※「色の変更」ウィンドウについて詳しくは、「7.4 色の変更ウィンドウ」を参照してください。



● 色の変更の手順

- ① 「スキャン後に色を変更する」にチェックする。
- ② 原稿をスキャンする。
- ③ スキャン終了後表示される「色の変更」ウィンドウで色の変更を行う。
- ④ 色の変更の設定を保存する。
- ⑤ ユーザ定義に「色の変更」の設定を反映させるには、色の変更の設定を保存した後「色の変更をファイルで指定する」で保存した設定ファイルを指定し、ユーザ定義を保存してください。

スキャン後に色を変更する

☐ スキャン後に色を変更する

原稿を読み込み、減色が終了した後に「色の変更」ウィンドウを表示し、色を変更することができます。

色の変更をファイルで指定する



保存した色の変更ファイルを指定し、スキャン後に色を変更します。

この設定にチェックを入れると、スキャン後に自動的にファイルの設定に従って色を変更されます。

※「スキャン後に色を変更する」にチェックを入れたときのみ指定できます。

※「スキャン後に色を変更する」で「色の変更」を行い、その結果をファイル保存した場合にリスト表示されます。

ファイル名

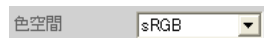
色の変更を設定したファイルを指定します。

色数



減色に使用する色の数を指定します。

色空間



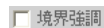
読み込み時の色空間を指定します。

sRGBsRGB の色空間を使用してスキャンします。

Adobe RGBAdobe RGB の色空間を使用してスキャンします。

※ スキャナがCSX510/530/550の場合に指定できます。

境界強調



背景とデータとの境界を鮮明にします。

※ 高解像度で読み込んだ場合、背景のゴミが多くなることがありますので、そのときにはオフにしてください。

自動ゴミ取り



原稿の読み取りと同時に指定した大きさのゴミ取りを行います。

ゴミイメージ上でゴミのように見える小さな点などを指します。

ゴミのサイズ



「自動ゴミ取り」で除去するゴミの大きさを設定します。

設定値の範囲 1 ～ 30ピクセル (1ピクセル単位で設定できます。)

自動傾き補正



スキャナが原稿を傾いた状態で読み取った場合、自動的に傾いたイメージの補正を行います。

最大で±7.1°の傾きまで自動補正します。

※ 原稿の材質によっては、期待する結果にならない場合があります。

モアレの除去



モアレを除去します。

モアレの強さによって、リストから最適な設定を選択してください。

※ モアレ除去の効果が強い設定を選択していくと、イメージは全体的にぼやけていきます。

折り目の軽減



折り目を軽減する強さを指定します。

設定値の範囲 0 ～ 255

設定値の入力 キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

● スライダーでの調整



つまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

● キーボードからの入力



キーボードから入力します。

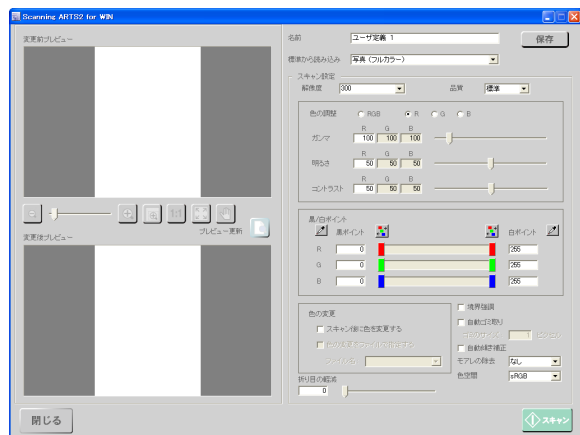
効果 大きい値を指定すると、処理の度合いが大きくなります。

0を指定すると、折り目軽減の処理を行いません。

※ 下地が白い原稿の場合のみ効果があります。

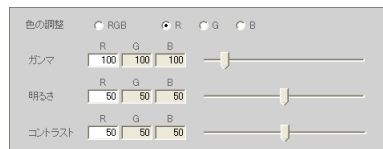
7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)

フルカラーには、「写真(フルカラー)」、「地図/図面(フルカラー)」、「地図/図面(マーカーペン強調)」、「ポスター(フルカラー)」、「新聞」があります。
原稿は、24ビットカラーイメージとして読み込みます。



色の調整

イメージの色を調整します。
RGBを選択するとR(赤)、G(緑)、B(青)の値を一括で設定できます。
Rを選択するとR(赤)の値を個別に設定できます。
Gを選択するとG(緑)の値を個別に設定できます。
Bを選択するとB(青)の値を個別に設定できます。



● スライダーでの調整



スライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

● キーボードからの入力



キーボードから入力します。

ガンマ

イメージのガンマ(中間調の明るさ)を調整します。
イメージの明るさを調整する際、「明るさ」を調整するとイメージ全体の明るさが同時に変化するため、イメージの明るい部分が白く飛んでしまったり、暗い部分が黒くなりすぎる場合があります。イメージ全体の明暗の中間の部分の明るさのみを変える場合に「ガンマ」を調整してください。

設定値の範囲50～500

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果大きい値を指定すると中間調部分が明るいイメージとして読み込まれます。

明るさ

イメージの明るさを指定します。

設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

効果明るいイメージにする場合→大きい値を指定してください。
暗いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

コントラスト

イメージの濃淡(色の濃さ)を調整します。

設定値の範囲0～100

設定値の入力キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

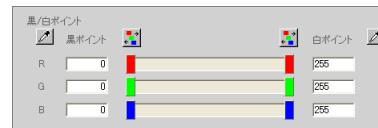
効果濃淡の濃いイメージにする場合→大きい値を指定してください。
淡いイメージにする場合→小さい値を指定してください。

ガンマ、明るさ、コントラストの設定について

ガンマ、明るさ、コントラストは、R(赤)、G(緑)、B(青)を共通または個別に設定することができます。

黒/白ポイント

黒ポイントと白ポイントの値を指定します。



黒ポイント

設定値の範囲0～254

効果イメージの背景をより黒くしたい場合に使用します。

黒ポイントは、イメージを黒として読み込む基準を設定します。

黒ポイントを設定すると、0から設定した値までの色は全て黒として読み込みます。

より黒くする場合は大きい値を指定してください。

黒くなり過ぎた場合は小さい値を設定してください。

白ポイント

設定値の範囲 1 ～ 255

効果 イメージの背景をより白くしたい場合に使用します。

白ポイントは、イメージを白として読み込む基準を設定します。

白ポイントを設定すると、設定した値から255までの色は全て白として読み込みます。

より白くする場合は小さい値を指定してください。

白くなり過ぎた場合は大きい値を設定してください。

黒／白ポイント設定について

8ビットカラー／24ビットカラーでは、「黒／白ポイント」はR(赤)、G(緑)、B(青)別に設定することができます。

白／黒ポイントの設定値入力方法

値を設定するには、スライダーでの調整、キーボードからの入力、スポイトの使用の三つの方法があります。

● スライダーでの調整



二つのつまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

左のつまみは黒ポイントの値を指定します。

右のつまみは白ポイントの値を設定します。

※ R(赤)、G(緑)、B(青)を同じ値に設定する場合は、 ボタンを押すと、R(赤)、G(緑)、B(青)のつまみを同時に動かせるようになります。



黒ポイントの値をRGB全て同じ値に設定する場合は、左の ボタンを押して設定してください。

白ポイントの値をRGB全て同じ値に設定する場合は、右の ボタンを押して設定してください。

● キーボードからの入力



黒ポイントの値は「黒ポイント」表示の下に入力します。

白ポイントの値は「白ポイント」表示の下に入力します。

● 「スポイト」の使用



ボタンは、プレビューウィンドウにイメージが表示されている場合に使用できます。

黒ポイントを設定する場合

左側の ボタンは黒ポイント用のスポイトです。

ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が黒ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番明るい色が黒ポイントに設定されます。

白ポイントを設定する場合

右側の ボタンは白ポイント用のスポイトです。

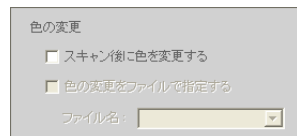
ボタンを押した後、イメージ上にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、カーソルのある位置の色が白ポイントに設定されます。

また、マウスをドラッグして離すと、ドラッグして囲んだ領域の中で一番暗い色が白ポイントに設定されます。

色の変更

イメージの色を編集することができます。

※「色の変更」ウィンドウについて詳しくは、「7.4 色の変更ウィンドウ」を参照してください。



● 色の変更の手順

- ① 「スキャン後に色を変更する」にチェックする。
- ② 原稿をスキャンする。
- ③ スキャン終了後表示される「色の変更」ウィンドウで色の変更を行う。
- ④ 色の変更の設定を保存する。
- ⑤ ユーザ定義に「色の変更」の設定を反映させるには、色の変更の設定を保存した後「色の変更をファイルで指定する」で保存した設定ファイルを指定し、ユーザ定義を保存してください。

スキャン後に色を変更する

☐ スキャン後に色を変更する

原稿の読み込みが終了した後に「色の変更」ウィンドウを表示し、色を変更することができます。

色の変更をファイルで指定する



保存した色の変更ファイルを指定し、スキャン後に色を変更します。

この設定にチェックを入れると、スキャン後に自動的にファイルの設定に従って色が変更されます。

※「スキャン後に色を変更する」にチェックを入れたときのみ指定できます。

ファイル名

色の変更を設定したファイルを指定します。

境界強調

☐ 境界強調

背景とデータとの境界を鮮明にします。

※ 高解像度で読み込んだ場合、背景のゴミが多くなることがありますので、そのときにはオフにしてください。

自動ゴミ取り

☐ 自動ゴミ取り

ゴミのサイズ: ピクセル

原稿の読み取りと同時に指定した大きさのゴミ取りを行います。

ゴミ イメージ上でゴミのように見える小さな点などを指します。

ゴミのサイズ

☒ 自動ゴミ取り

ゴミのサイズ: ピクセル

「自動ゴミ取り」で除去するゴミの大きさを設定します。

設定値の範囲 1 ～ 30 ピクセル (1 ピクセル単位で設定できます。)

自動傾き補正

☐ 自動傾き補正

スキャナが原稿を傾いた状態で読み取った場合、自動的に傾いたイメージの補正を行います。

最大で ± 7.1° の傾きまで自動補正します。

※ 原稿の材質によっては、期待する結果にならない場合があります。

モアレの除去

モアレの除去

モアレを除去します。

モアレの強さによって、リストから最適な設定を選択してください。

※ モアレ除去の効果が強い設定を選択していくと、イメージは全体的にぼやけていきます。

カラーモード

カラーモード

読み込み時の色合いを設定します。

写真 写真やポスターなどの印刷物に適した色合いです。

図面 地図・図面などに適した色合いです。

※ スキャナが CS500/510/600/610/CSX300/SK200 の場合に指定できます。

色空間

色空間

読み込み時の色空間を指定します。

sRGB sRGB の色空間を使用してスキャンします。

Adobe RGB Adobe RGB の色空間を使用してスキャンします。

※ スキャナが CSX510/530/550 の場合に指定できます。

折り目の軽減

折り目の軽減

折り目を軽減する強さを指定します。

設定値の範囲 0 ～ 255

設定値の入力 キーボードから入力するか、スライダーのつまみを動かしてください。

● スライダーでの調整



つまみが付いたスライダーを使用します。スライダーは右に行くほど値は大きくなり、左に行くほど値は小さくなります。

● キーボードからの入力

キーボードから入力します。

効果 大きい値を指定すると、処理の度合いが大きくなります。

0 を指定すると、折り目軽減の処理を行いません。

※ 下地が白い原稿の場合のみ効果があります。

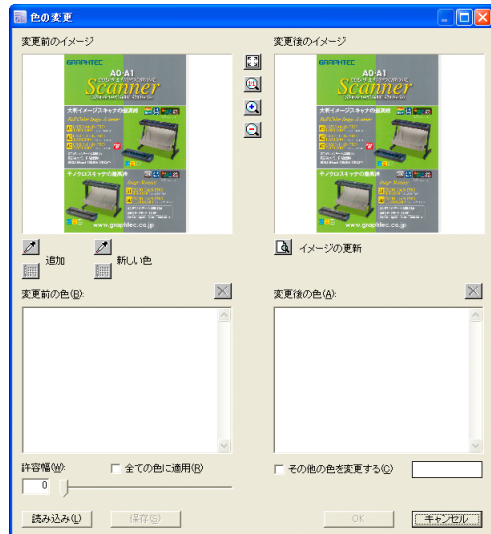
7.4 色の変更ウィンドウ

7.4.1 色の変更ウィンドウ

「色の変更」ウィンドウについて説明します。

「色の変更」ウィンドウは、「原稿の種類設定」ウィンドウで「スキャン後に色を変更する」にチェックを入れた状態で「スキャン」ボタンを押すと表示されます。

このウィンドウでは、イメージの色を変更することができます。



色の変更の手順

- ① 変更する色を選択する
- ② 変更後の色を決める
- ③ イメージを更新する
- ④ 目的のイメージ画像が得られるまで①～③を繰り返す
- ⑤ 目的のイメージが得られたら、「保存」ボタンを押して色の変更の設定を保存する
- ⑥ 「OK」ボタンを押し、「色の変更」ウィンドウを閉じる

① 変更する色を選択する

変更する色を選択すると、「変更前の色」リストに表示されます。このリストで選択されている色が変更されます。

変更する色を選択する

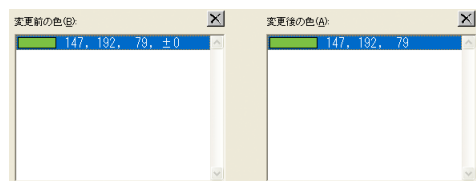
- 「新しい色」ボタンを使用する場合



新しい色

「新しい色」ボタンを押します。

続けて「変更前のイメージ」ウィンドウから変更したい色を選択します。



- パレットを使用する場合



パレットから選択する

「新しい色」ボタンの下の「パレットから選択する」ボタンを押してパレットから変更したい色を選択します。

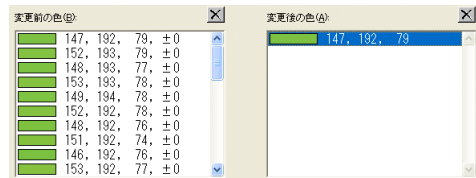
※ 原稿の種類が「地図／図面（減色処理）」の場合のみ使用できます。



- まとまった範囲の色を同じ色に変更する場合

変更前のイメージ上で左クリックしてドラッグすると四角形が描かれます。マウスの左ボタンを離した時点の四角形に含まれる色が、変更する色になります。

※ この場合、一度の操作で「変更前の色」リストに追加される色は16色までです。



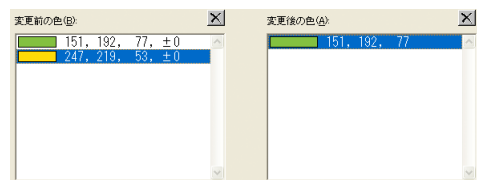
変更する色を追加する

●「追加」ボタンを使用する場合



追加

「追加」ボタンを押します。
続けて「変更前のイメージ」ウィンドウから変更したい色を選択します。



●パレットを使用する場合

「追加」ボタンの下の「パレットから選択する」ボタンを押してパレットから追加する色を選択します。

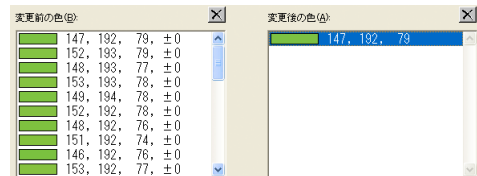
※ 原稿の種類が「地図／図面（減色処理）」の場合のみ使用できます。



●まとまった範囲の色を追加する場合

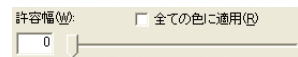
変更前のイメージ上で左クリックしてドラッグすると四角形が描かれます。マウスの左ボタンを離れた時点の四角形に含まれる色が、追加されます。

※ この場合、一度の操作で「変更前の色」リストに追加される色は16色までです。



●許容幅を設定する場合

許容幅を増やすと、変更する色を増やすことができます。



許容幅を増やしたい色を選択してから、スライダーまたはキーボード入力で許容幅を指定してください。

「全ての色に適用」をチェックすると、許容幅の変更が、「変更前の色」リストに表示されている全ての色に適用されます。

選択した色を修正する

「変更前の色」リストの色の中から修正したい色をダブルクリックすると、「色の設定」ウィンドウを表示します。

そこで色を選択しなおしてください。



選択した色を削除する場合



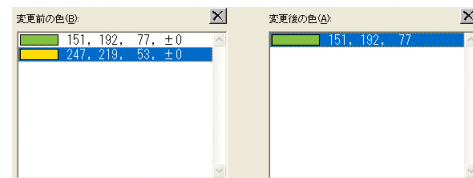
削除

「変更前の色」リストから、削除したい色を選択し、「削除」ボタンを押します。

②変更後の色を決める

①の操作で選択された色に対して、変更後の色が1つ指定できます。

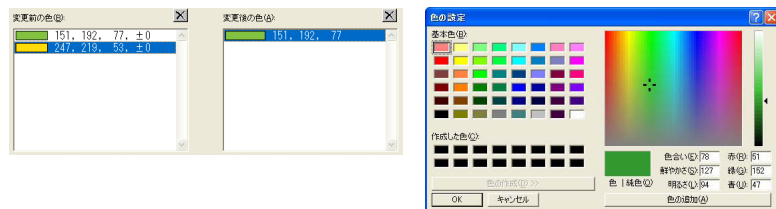
変更前の色を選択すると、「変更前の色」リストの一番先頭の色が変更後の色として「変更後の色」リストに表示されます。



この色は以下の方法で変えることができます。

変更後の色を修正する

「変更後の色」リストから修正したい色をダブルクリックすると、「色の設定」ウィンドウを表示します。
変更後の色を選択します。

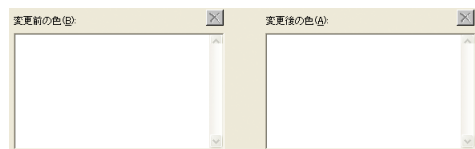


変更後の色を削除する場合



削除

「変更後の色」リストから、削除したい色を選択し、「削除」ボタンを押します。



「変更後の色」を削除すると、元の色(変更前の色)も同時に削除されます。

③イメージを更新する

色を変更した後のイメージを表示します。



イメージの更新

「イメージの更新」ボタンを押すと、「変更後のイメージ」ウィンドウボタンが更新されます。

④目的のイメージ画像が得られるまで①～③を繰り返す

①に戻り、「新しい色」を選択すると、「変更前の色」、「変更後の色」にそれぞれ追加されます。



「変更前の色」リストには、「変更後の色」リストで選択した色の元の色(変更前の色)が表示されます。

⑤目的のイメージが得られたら、「保存」ボタンを押して色の変更の設定を保存する

⑥「OK」ボタンを押し、「色の変更」ウィンドウを閉じる

7.4.2 色の変更ウィンドウの構成

「色の変更」ウィンドウは、左側が変更前のプレビューと色の表示部分、右側が変更後のプレビューと色の表示部分に分けられます。

変更前のイメージ

色を変更する前のイメージを表示します。

新しい色

変更する色を新規に選択します。



新しい色

新しい色 変更前の色を選択します。新しい色を選択すると、その色に対して1つ変更後の色が設定されます。



パレット

パレット パレットから新しい色を選択します。新しい色を選択すると、その色に対して1つ変更後の色が設定されます。

※ 原稿の種類が「地図／図面(減色処理)」の場合のみ使用できます。

※ 「7.4.3 色の選択」を参照してください。

追加

「新しい色」で選択した色に対して、変更する色を追加します。



追加

追加 変更前の色を追加します。追加する色を選択すると、「変更前の色」リストに追加されます。



パレット

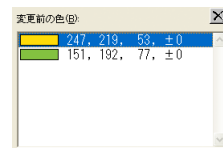
パレット パレットから追加する色を選択します。追加する色を選択すると、「変更前の色」リストに追加されます。

※ 原稿の種類が「地図／図面(減色処理)」の場合のみ使用できます。

※ 「7.4.3 色の選択」を参照してください。

変更前の色

変更前の色のリストです。

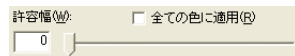


「変更前の色」リストには、「変更後の色」リストで選択された色の元の色(変更前の色)が表示されます。

247, 219, 53, ±0

リストには、選択された色、赤(R)、緑(G)、青の値(B)、許容幅の値が表示されます。

許容幅



変更前の色の許容幅を指定します。

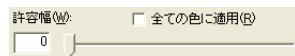
許容幅の設定が

0の場合.....「変更前の色」で指定した色のみ、「変更後の色」で設定した色に変更されます。

20の場合.....「変更前の色」で指定した色のRGB値それぞれの値から±20の幅に入る色が「変更後の色」で設定した色に変更されます。

255の場合.....許容幅の設定を255にすると、全ての色が「変更後の色」で指定した色に変更されます。

全ての色に適用



「全ての色に適用」をチェックすると、許容幅の変更が、「変更前の色」リストに表示されている全ての色に適用されます。

変更後のイメージ

色を変更した後のイメージを表示します。

イメージの更新

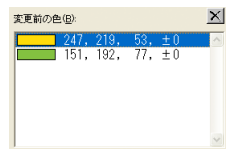


イメージの更新

「変更後のイメージ」を更新します。

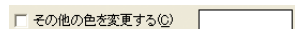
変更後の色

変更後の色のリストです。



「変更後の色」リストには、変更後の色が表示されます。「変更前の色」リストには、ここで選択した色の元の色(変更前の色)が表示されます。

その他の色を変更する



「その他の色を変更する」にチェックすると、「変更前の色」で選択した色以外の色を全て同じ色に変更します。

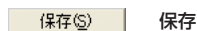
隣の□部分をクリックすると「色の設定」ウィンドウが表示され、変更後の色を設定することができます。

読み込み



既存のファイルから色の変更の設定を読み込みます。
「読み込み」ウィンドウより、読み込むファイルを選択してください。

保存



現在の色の変更の設定をファイルに保存します。
「保存」ウィンドウより、適切なファイル名を付けて保存してください。

プレビュー操作

- イメージ画像の任意の範囲を表示するには
イメージ上でマウスの右ボタンでドラッグし、四角形を表示させます。右ボタンを離すと指定した範囲のイメージが現在のウィンドウサイズに合わせて表示されます。
- イメージ画像をスクロールするには
「変更後のイメージ」ウィンドウでマウスの左ボタンでドラッグします。マウスを移動した方向にイメージ画像がスクロールします。
「変更前のイメージ」ウィンドウでは、「新しい色」ボタン、または「追加」ボタンをクリックしていない場合のみスクロールすることができます。

7.4.3 色の選択

「色の変更」で「パレットから選択」ボタンをクリックすると、「色の選択」ウィンドウが表示されます。



選択する色をクリックして設定します。

※ このとき、[Shift] キー、または [Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数の色を選択することができます。

表示順.....色の表示順を変更します。

インデックス、明度、色相が選択できます。

7.5 こんなときには

● 色合いを変えたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」の「色の調整」→「ガンマ・明るさ・コントラスト」を参照してください。

● 色を明るくしたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」を参照してください。

モノクロの原稿の場合

「7.3.2.1 原稿の種類(白黒)」または「7.3.2.2 原稿の種類(グレースケール)」の「色の調整」→「明るさ」を参照してください。

カラーの原稿の場合

「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」の「色の調整」→「明るさ(またはコントラスト)」を参照してください。

● 線をはっきりさせたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「境界強調」を参照してください。

● 背景を白くしたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「白ポイント」を参照してください。

● 指定した色を他の色に変えたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」の「色の変更」を参照してください。

● 原稿の折り返しを消したい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」の「折り返しの軽減」を参照してください。

● スキャンしたデータに淡い縞模様状のものが現れる

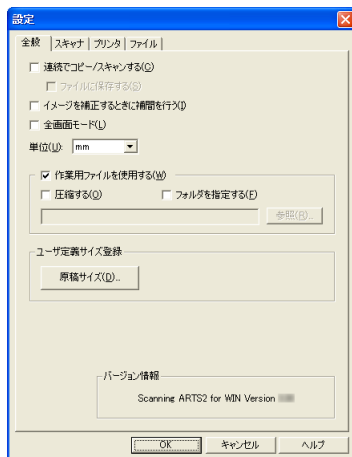
「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」→「7.3.2.3 原稿の種類(減色処理)」または「7.3.2.4 原稿の種類(フルカラー)」の「モアレの除去」を参照してください。

● 原稿の小さなゴミを取りたい

「第7章 原稿の種類 ユーザ定義を作成する」→「7.3 設定項目の詳細」→「7.3.2 スキャン設定」の「自動ゴミ取り」を参照してください。

第8章 設定ウィンドウ

8.1 全般タブ



連続でコピー／スキャンをする

連続してコピーまたはスキャナから読み込みを行う場合にチェックします。

このオプションがONの時にコピー／スキャンを行うと、原稿の読み込み終了後に「原稿をスキャナに挿入してください」というメッセージが表示されますので、次の原稿を読み込ませる場合にはスキャナに原稿を入れてください。

読み込みを終了する場合は「キャンセル」ボタンを押してください。

※ ファイルから読み込みを行う場合は無効です。

ファイルに保存する

連続してコピーを行うときに、同時にイメージを保存したい場合にチェックを入れてください。

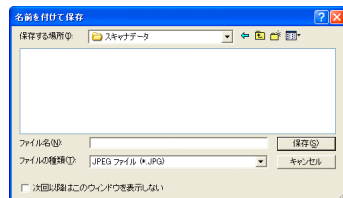
このオプションがONの時にコピーボタンを押すと、「名前を付けて保存」ウィンドウまたは「データ保存」ウィンドウを表示しますので、データ保存先を指定してください。

※ コピーモードの場合のみ有効です。

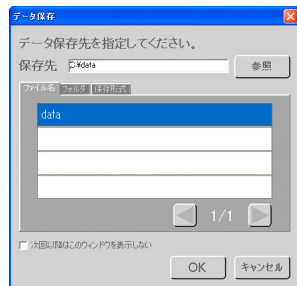
※ コピーの実行中に保存データが制限サイズを越えた場合は、保存可能な最大サイズまで保存を行います。この場合、コピー終了時に「ファイルの制限を越えたため、最後まで保存できませんでした」というメッセージを表示します。

※ 「連続でコピー／スキャンする」のチェックを入れたときに選択できます。

- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされていない場合、Windowsの「名前を付けて保存」ウィンドウを表示します。



- 「設定」ウィンドウ「全般」タブの「全画面モード」がチェックされている場合、以下の「データ保存」ウィンドウを表示します。



- ※ 上記のウィンドウの「次回以降はこのウィンドウを表示しない」にチェックを入れると、次の原稿以降の読み込みの際にはこのウィンドウは表示されず、前の原稿と同じフォルダに同じ形式で保存されます。このときファイル名を自動生成が可能なファイル名にしておくと、次の原稿以降は自動的にファイル名が作成されます。

ファイル名の生成を自動で行う

ファイルの末尾に半角数字が付いたファイル指定すると、続けて保存しても上書きされずに、末尾の数字+1のファイル名が自動的に生成されます。

● ファイル名自動作成の流れ

- ① ファイル名の末尾に半角数字が付いたファイル指定します。(例.: Sample001)
 - ② 保存します。(Sample001で保存されます。)
 - ③ 次に保存するときには、ファイル名の末尾の半角数字に1を加えたファイル名が自動で作成されます。(例.: Sample002)
- ※ 桁上がりが起こる場合は、可能である場合は桁上がりします。桁上がり不可能な場合は、桁あふれの起きた桁は0になります。(Sample999の次は、Sample000になります。)
- ※ はじめの原稿を、自動生成ができないファイル名で保存した場合、次の原稿以降を読み込む際には「上書き」ウィンドウが表示されますので、上書きしない場合は別のファイル名を指定してください。
- ※ 「次回以降はこのウィンドウを表示しない」にチェックを入れない場合、次の原稿以降を読み込ませるたびに、「名前を付けて保存」ウィンドウまたは「データ保存」ウィンドウを表示します。

イメージを補正するときに補間を行う

データがグレースケールまたはカラーのとき、台形補正や拡大縮小を行ったときにイメージが滑らかになるように補間を行います。

全画面モード

表示方法を指定します。

ディスプレイの全面に張り付くように表示させるときは、チェックを入れてください。
ウィンドウで表示するときには、チェックをはずしてください。

※ タッチパネルをご使用の際は、全画面モードにチェックを入れてください。

※ 全画面モードを指定した場合は、ご使用になる画面の解像度を 1024 × 768 にしてください。

単位

単位を inch/mm で切り替えます。

作業用ファイルを使用する

このオプションを指定すると、ファイルやスキャナから読み込んだイメージ画像を一時的に作業用ファイルに保存し、使用するメモリ領域を節約することができます。

※ 大きな原稿などを読み込む場合に使用します。

※ 通常はチェックを入れたままにしておいてください。

圧縮する

作業用ファイルを圧縮してディスク領域を節約します。

※ 動作が若干遅くなる場合がありますので、通常はチェックを外して使用してください。

フォルダを指定する

作業用ファイルを作成するフォルダを指定する場合にチェックしてください。

直接保存先を入力することも、「参照」ボタンを押して参照ダイアログを表示し、保存先を指定することもできます。

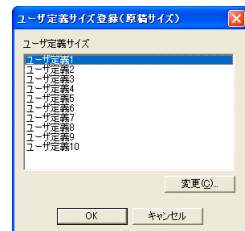
※ チェックされていない場合は、システムのテンポラリフォルダに作成します。

ユーザ定義サイズ登録

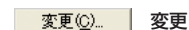
原稿サイズのユーザ定義サイズを作成します。

原稿サイズ

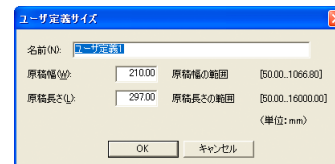
原稿サイズのユーザ定義サイズを登録します。



ユーザ定義サイズ 1 ～ 10 から任意の番号を選択し、変更ボタンを押してください。



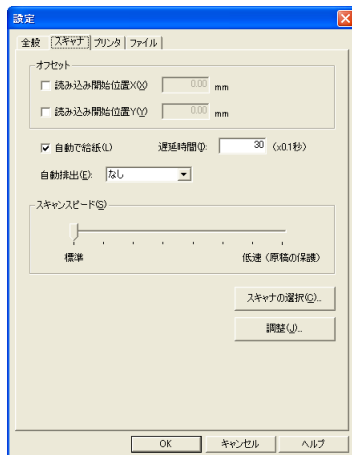
設定画面が表示されますので、名前を変更する場合はキーボードから名前を入力し、任意のサイズを設定して「OK」ボタンを押してください。



バージョン情報

Scanning Arts 2 for WINの現在のバージョンを表示します。

8.2 スキャナタブ



オフセット

読み込み開始位置をずらしします。先端の余白などを読み飛ばす場合などに使用します。

読み込み開始位置X

原稿の左上を原点として、Xの分だけ原稿の幅方向に読み込み開始位置がずれます。

読み込み開始位置Y

原稿の左上を原点として、Yの分だけ原稿の長さ方向に読み込み位置がずれます。

自動で給紙

スキャナに原稿を入れる際、自動で給紙します。手動で給紙する場合はチェックをはずしてください。

※ 薄い原稿、大きな原稿等を読み取るときには、手動で給紙してください。

遅延時間

「自動で給紙」をチェックしている場合、原稿がスキャナのセンサースイッチに触れて実際に原稿が給紙されるまでの時間を0.1秒単位で指定します。

例えば、遅延時間を「15」に設定すると、原稿がセンサースイッチに触れてから1.5秒後に給紙が開始されます。

自動排出

原稿の読み取りが終了した後の、原稿の処理を指定します。

なし 読み取り終了後、自動排出を行いません。原稿は読み取り終了位置で止まります。

後方排出 読み取り終了後、原稿をスキャナ後部から排出します。

手前 読み取り終了後、原稿をスキャナ前部に戻します。

後方 読み取り終了後、原稿をスキャナ後部に送ります。

スキャンスピード

原稿の移動速度（読み込みの速度を含む）を指定します。

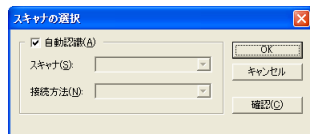
柔らかい（腰のない）原稿を読み込む場合や、原稿に対する負荷を低減させたい場合は、スキャンスピードを下げてください。

※ 通常は標準でご利用ください。

※ スキャナの制限のため、スピードを変更しても実際の読み込み速度は変化しない場合があります。

スキャナの選択

使用するスキャナを選択します。

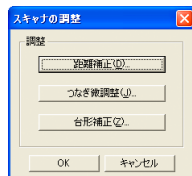


「自動認識」にチェックされていることを確認してから「確認」ボタンをクリックして接続状況を確認します。接続確認後、「OK」ボタンを押してください。

※ 自動認識でスキャナを認識できない場合は、「自動認識」のチェックを外してご利用の機種を選択してください。

調整

スキャナの調整ダイアログを表示します。



読み取り後の図面の精度を元の図面の精度に近づける場合に設定を行います（読み取る紙質による精度の微調整）。

※ 通常はこの調整を行う必要はありません。

距離補正

距離補正(D)...

距離補正

読み取る原稿の種類に合わせて、距離の補正を行います。

設定範囲 約1%未満（スキャナの電源を切るまで有効）

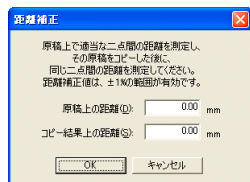
距離補正では、任意の垂直線が描かれた原稿を測定する必要があります。

以下の手順で原稿を測定してください。

① 1本以上垂直線が描かれている原稿を選び、600dpi、縦でコピーします。



- ② 原稿の垂直線の長さを測定し、その値を x (原稿上の距離) とします。
- ③ コピーした印刷物の垂直線の長さを測定し、その値を y (読み取り後の距離) とします。
- ④ 「スキャナの調整」ウィンドウの「距離補正」ボタンを押して、「距離補正」ウィンドウを表示させてください。



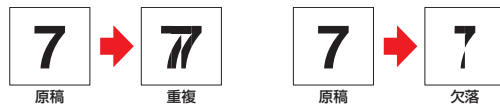
- ⑤ 原稿上の距離 x とコピーした印刷物の距離 y の値を入力します。
※ 距離補正の範囲内の値を入力してください。
- ⑥ 「OK」ボタンをクリックすると、原稿上の距離 x とコピーした印刷物の距離 y の差から補正値が計算され、次の読み込みから自動的に距離が補正されます。

つなぎ微調整

つなぎ微調整 (J)...

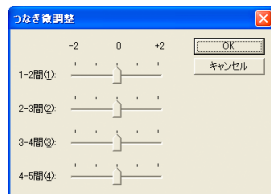
つなぎ微調整

スキャナは複数のセンサを使用しています。まれに、この複数のセンサ間のつなぎ目で、データに 1～2 画素の重複があったり、1～2 画素の欠陥があったりすることがあります。



このような場合は、次の手順でセンサ間のつなぎ目を微調整してください。

- ① 「スキャナの調整」ウィンドウの「つなぎ微調整」ボタンを選択すると、「つなぎ微調整」ウィンドウを表示します。



- ② つなぎ目を、センサごとにそれぞれ微調整します。センサのつなぎ目で、データに重複がある場合..... プラスに設定してください。
データに欠落がある場合..... マイナスに設定してください。
通常は、0 を指定してください。(0 を指定すると、工場出荷時の状態になります。)
※ パソコン画面上で見て、左側から 1-2 間、2-3 間となります。
- ③ 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

台形補正

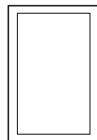
台形補正 (Z)...

台形補正

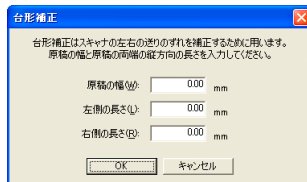
スキャナの紙送り機構による紙送り方向の微小な変形 (すれ) を補正します。
原稿では図形の左右が同じ長さの線が、読み込みの際異なる長さとして読み込まれる場合、長い方の線に合わせて長さを調整することができます。
台形補正では、原稿に描かれた長方形を測定する必要があります。
下記の手順に従って原稿を用意し、測定を行ってください。

- ① できるだけ大きい長方形 (図面枠など) を描いた原稿を用意し、台形補正をオフにした状態でコピーします。

※ このとき、用紙は読み取りたい原稿と同じ紙質で同じサイズの用紙を使用してください。また、コピーの際の設定は、読み取りたい原稿を実際にコピーするときと同じ条件にしてください。



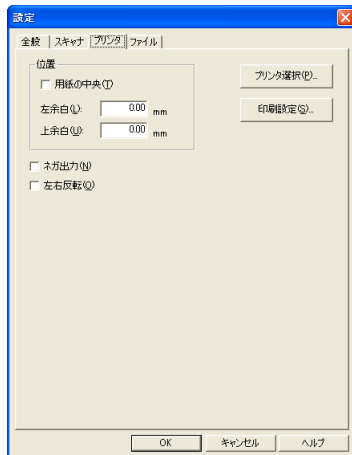
- ② コピーした印刷物の長方形の左辺、右辺、上辺の長さを測定してください。
- ③ 「スキャナ調整」ウィンドウの「台形補正」ボタンを押して、「台形補正」ウィンドウを表示させてください。



- ④ 「原稿の幅」、「左側の長さ」、「右側の長さ」にそれぞれ (用) で測定した長方形の上辺、左辺、右辺を入力してください。
- ⑤ 「OK」ボタンを押すと、スキャナの紙送り機構の変形 (すれ) を補正するように設定されます。
※ この機能は、台形補正の際に使用した用紙と同じ紙質で同じサイズの原稿を、同じ条件で読み込んだ時のみ効果があります。
誤った設定でご使用になると精度を損ねることがあります。通常はオフでご使用ください。オフで使用してもスキャナで保証された精度で読み取ることができます。台形補正をオフにするには、「台形補正」ウィンドウの原稿の幅、左側の長さ、右側の長さのいずれかを 0 に設定してください。

8.3 プリントタブ

プリントタブは使用するプリンタによって表示項目が変わります。
まず始めに、プリンタ選択ボタンを押して、ご使用になるプリンタを選択してください。

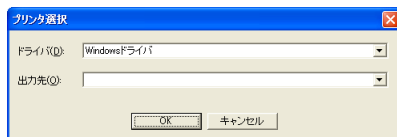


プリンタの選択

プリンタ選択(P)...

プリンタ選択

プリンタを選択します。
「プリンタ選択」ボタンを押すと、「プリンタ選択」ウィンドウが表示されます。



プリンタの機種を選択します。
「出力先」から使用するプリンタドライバ名を選択してください。
※ あらかじめ使用するプリンタドライバをインストールして、プリンタドライバの印字テストが正常に行えることを確認してください。
「OK」ボタンを押してください。

印刷設定

印刷設定(S)...

印刷設定

「プリンタ選択」ウィンドウで設定したプリンタドライバのプロパティウィンドウを表示します。
印刷品位や色調整などの設定を行ってください。

※ 表示されるプリンタドライバのプロパティウィンドウは、ご使用のプリンタの機種によります。
※ 色刷品位や色調整などの設定は、コピーやプリントの用途に合わせて設定することをお勧めします。

位置

用紙の中央

読み取ったデータの中心がプリンタの作図範囲の中心になるように出力します。

左余白

読み取ったデータをプリンタの作図範囲から指定された数値の分だけ右にずらして出力します。

上余白

読み取ったデータをプリンタの作図範囲から指定された数値の分だけ下にずらして出力します。

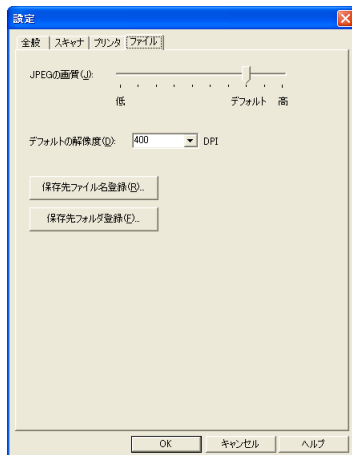
ネガ出力

原稿の読み込み終了後、イメージ画像の色を反転してプリンタに出力します。

左右反転

原稿の読み込み終了後、イメージ画像の左右を反転してプリンタに出力します。

8.4 ファイルタブ



JPEGの画質

ファイルをJPEG形式で保存する場合の画質を指定します。画質を低く設定すると、ファイルサイズは小さくなりますが、イメージは粗くなります。

デフォルトの解像度

読み込んだファイルに解像度が書き込まれていないときに使用する解像度を指定します。

● 設定値の入力方法

リストボックスから選択する

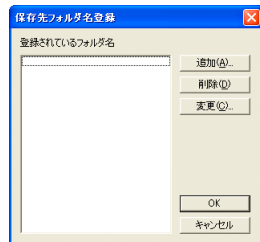
100、200、300、400、600、800から選択してください。

キーボードからの入力

リストボックスに値を直接入力してください。設定値の範囲は、50～4800 (1単位) です。

保存先ファイル名登録

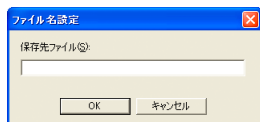
イメージデータをファイルに保存する際の、ファイル名を登録します。「保存先ファイル名登録」ボタンを押すと、「保存先ファイル名登録」ウィンドウが表示されます。



登録されているファイル名

.....登録されているファイル名を表示します。

追加.....新しいファイル名を追加します。「ファイル名設定」ウィンドウに新しいファイル名を入力して「OK」ボタンを押します。

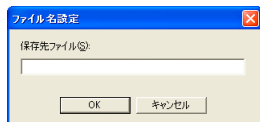


削除.....選択されているファイル名の登録を削除します。

「登録されているファイル名」リストで、ファイル名をクリックして選択し、「削除」ボタンを押してください。

変更.....選択されているファイル名を変更します。

「登録されているファイル名」リストで、ファイル名をクリックして選択し、「変更」ボタンを押してください。「ファイル名設定」ウィンドウが開き、ファイル名を変更して「OK」ボタンを押します。



● ファイル名の生成を自動で行う

ファイルの末尾に半角数字が付いたファイルを指定すると、続けて保存しても上書きされずに、末尾の数字+1のファイル名が自動的に生成されます。

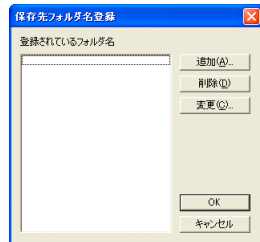
ファイル名自動作成の流れ

- ① ファイル名の末尾に半角数字が付いたファイルを指定します。(例.Sample001)
- ② 保存します。(Sample001で保存されます。)
- ③ 次に保存するときには、ファイル名の末尾の半角数字に1を加えたファイル名が自動で作成されます。(例.Sample002)

※ 桁上がりが起こる場合は、可能である場合は桁上がりします。桁上がりがない場合は、桁あふれの起きた桁は0になります。(Sample999の次は、Sample000になります。)

保存先フォルダ登録

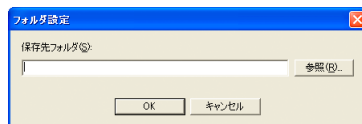
イメージデータをファイルに保存する際の、保存先フォルダを登録します。「保存先フォルダ登録」ボタンを押すと、「保存先フォルダ登録」ウィンドウが表示されます。



登録されている保存先フォルダ

.....登録されているフォルダを表示します。

追加.....新しいフォルダを追加します。「フォルダ設定」ウィンドウにフォルダ名を入力して「OK」ボタンを押します。



削除.....選択されているフォルダの登録を削除します。
「登録されているフォルダ名」リストで、フォルダをクリックして選択し、「削除」ボタンを押します。

第9章 ファイル形式について

Scanning Arts 2 for WINでは、以下のファイル形式を扱うことができます。イメージ画像により、対応できるファイル形式は異なります。

ビットマップ

Windowsのビットマップデータとして保存します。
デフォルトの拡張子は BMP となります。

ビットマップRLE

WindowsのRLE圧縮形式のビットマップデータとして保存します。
デフォルトの拡張子は BMP となります。

CAD Overlay ESP

CAD Overlay ESP用のフォーマットです。
デフォルトの拡張子は RLC となります。

※ CAD Overlay ESPでは、保存する時データに解像度の情報を付加することができません。
Scanning Arts 2 for WINでは、CAD Overlay ESPで保存する場合、イメージデータをそのまま保存します。既存のCAD Overlay ESPのイメージデータをファイルより読み込む場合は、[設定][ファイル]タブの「デフォルトの解像度」で設定した解像度として扱います。

TIFF非圧縮・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)の非圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF非圧縮・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)の非圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF G4・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)のGroup4(MMR)圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF G4・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)のGroup4(MMR)圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF Pack Bits・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)のPack Bits圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF Pack Bits・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)のPack Bits圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF CCITT G3・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)のCCITT Group3圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF CCITT G3・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)のCCITT Group3圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF G3・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)のGroup3圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF G3・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)のGroup3圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF JPEG・MSB

TIFF形式・Motorola型(BigEndian)のJPEG圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

TIFF JPEG・LSB

TIFF形式・Intel型(LittleEndian)のJPEG圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は TIF となります。

CALS G4

CALS TYPE 1 形式のGroup4 (MMR) 圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は CG4 となります。

PCX

PCXのバージョン5形式です。
デフォルトの拡張子は PCX となります。

INTERGRAPH G4

INTERGRAPH形式のGroup4 (MMR) 圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は CIT となります。

Sun Raster 非圧縮

Sun Raster非圧縮形式のフォーマットです。
デフォルトの拡張子は RAS となります。

※ Sun Raster 非圧縮では、保存する時データに解像度の情報を付加することができません。Scanning Arts 2 for WINでは、Sun Raster 非圧縮で保存する場合、イメージデータをそのまま保存します。既存のSun Raster 非圧縮のイメージデータをファイルより読み込む場合は、[設定][ファイル]タブの「デフォルトの解像度」で設定した解像度として扱います。

Sun Raster Encode

Sun Raster Encode形式のフォーマットです。
デフォルトの拡張子は RAS となります。

※ Sun Raster Encodeでは、保存する時データに解像度の情報を付加することができません。Scanning Arts 2 for WINでは、Sun Raster Encodeで保存する場合、イメージデータをそのまま保存します。既存のSun Raster Encodeのイメージデータをファイルより読み込む場合は、[設定][ファイル]タブの「デフォルトの解像度」で設定した解像度として扱います。

JPEG

Joint Photographic Experts Group圧縮フォーマットです。
デフォルトの拡張子は JPG となります。

※ CAD Overlay ESP形式、TIFF JPEG形式、PCX形式、JPEG形式のファイルでは原稿の幅方向と送り方向とが以下の長さを超えるデータは保存できません。

解像度(DPI)	100	200	300	400	600	800	1200	1600
長さ(mm)	16645	8322	5548	4161	2774	2080	1387	1040

PDF

PDF (1.3) 形式のフォーマットです。
デフォルトの拡張子はPDFとなります。

対応ファイル形式一覧

○：読み込み、保存が行える。

△：原稿サイズ設定で自動長さ検出がOFFの場合、保存のみ行える。

×：読み込み、保存が行えない。

2値白黒 データ	グレースケール データ	8ビットカラー データ	24ビットカラー データ	ファイル形式
○	○	○	○	ビットマップ
×	○	○	×	ビットマップ RLE
○	×	×	×	CAD Overlay ESP
○	○	○	○	TIFF 非圧縮・MSB
○	○	○	○	TIFF 非圧縮・LSB
○	×	×	×	TIFF G4・MSB
○	×	×	×	TIFF G4・LSB
○	○	○	○	TIFF Pack Bits・MSB
○	○	○	○	TIFF Pack Bits・LSB
○	×	×	×	TIFF CCITT G3・MSB
○	×	×	×	TIFF CCITT G3・LSB
○	×	×	×	TIFF G3・MSB
○	×	×	×	TIFF G3・LSB
×	○	×	○	TIFF JPEG・MSB
×	○	×	○	TIFF JPEG・LSB
○	×	×	×	CALS G4
○	○	○	○	PCX
○	×	×	×	INTERGRAPH G4
○	○	○	○	Sun Raster非圧縮
○	○	○	×	Sun Raster Encode
×	○	×	○	JPEG
△	△	△	△	PDF

索引

数字

1:1表示.....	7
10キーウィンドウ.....	5
10キーボタン.....	13, 22

C

CAD Overlay ESP.....	48
CALS G4.....	49

I

INTERGRAPH G4.....	49
--------------------	----

J

JPEG.....	49
JPEGの画質.....	47

P

PCX.....	49
----------	----

S

Sun Raster Encode.....	49
Sun Raster非圧縮.....	49

T

TIFF CCITT G3・LSB.....	49
TIFF CCITT G3・MSB.....	48
TIFF G3・LSB.....	49
TIFF G3・MSB.....	49
TIFF G4・LSB.....	48
TIFF G4・MSB.....	48
TIFF JPEG・LSB.....	49
TIFF JPEG・MSB.....	49
TIFF Pack Bits・LSB.....	48
TIFF Pack Bits・MSB.....	48
TIFF非圧縮・LSB.....	48
TIFF非圧縮・MSB.....	48

あ

明るさ.....	10, 13, 19, 22, 28, 29, 31, 34
明るさ補正.....	28
新しい色.....	37, 39
圧縮する.....	43

い

位置.....	46
移動.....	7
イメージの更新.....	39, 40
イメージを補正するときに補間を行う.....	43
色空間.....	33, 36
色数.....	33
色の選択.....	41
色の調整.....	27, 29, 31, 34
色の変更.....	32, 35
色の変更ウィンドウ.....	37
色の変更をファイルで指定する.....	32, 35
印刷設定.....	46
インストール.....	1

お

オフセット.....	44
折り目の軽減.....	33, 36

か

拡大.....	7
画面構成.....	3
カラー.....	11, 20
カラーモード.....	36
ガンマ.....	29, 31, 34

き

起動.....	3
キャンセル.....	5
境界強調.....	28, 30, 33, 36
許容幅.....	38, 40
距離補正.....	44

く

グレースケール.....	28, 30
黒ポイント.....	28, 29, 31, 34

け

原稿サイズ.....	9, 12, 19, 22
原稿の種類.....	9, 11, 19, 21, 24
グレースケール.....	29
減色処理.....	31
白黒.....	27
フルカラー.....	34
原稿の種類設定ウィンドウ.....	24
原稿のセット.....	9, 19
原稿をコピーする.....	8

こ

コピー.....	14
コピー枚数.....	5, 10, 16
コピーモード.....	8
ゴミのサイズ.....	28, 30, 33, 36
コントラスト.....	29, 31, 34

さ

作業用ファイルを使用する.....	43
削除.....	38, 39
左右反転.....	46

し

自動傾き補正.....	28, 30, 33, 36
自動ゴミ取り.....	28, 30, 33, 36
自動で給紙.....	44
自動排出.....	44
終了.....	3, 5
縮小.....	7
白黒.....	11, 20
白ポイント.....	28, 29, 32, 35

す

スキャナタブ.....	44
-------------	----

スキャナの接続確認.....	5
スキャナの選択.....	44
スキャン.....	22, 25
スキャン後に色を変更する.....	32, 35
スキャンしたデータを保存する.....	18
スキャンスピード.....	44
スキャン設定.....	25, 27
スキャンモード.....	18
スケール.....	9, 13, 16, 17
全ての色に適用.....	40
スポイト.....	30, 32, 35

せ

設定.....	5
設定ウィンドウ.....	42
設定エリア.....	7
セットアップ.....	1
全画面モード.....	43
全体表示.....	7
全般タブ.....	42

そ

その他の色を変更する.....	40
-----------------	----

た

対応ファイル形式一覧.....	49
台形補正.....	45
単位.....	43

ち

遅延時間.....	44
調整.....	44

つ

追加.....	38, 39
つなぎ微調整.....	45

て

デフォルトの解像度.....	47
----------------	----

と

動作環境 1

ね

ネガ出力 46

は

バージョン情報 43

パレット 37, 39

範囲拡大 7

ひ

ビットマップ 48

ビットマップRLE 48

標準から読み込み 25

ふ

ファイル 16, 17

ファイル形式 48

ファイルタブ 47

ファイルに保存する 42

ファイル名 32, 35

ファイル名の生成を自動で行う 7, 42

ファイルをプリントする 15

フォルダを指定する 43

プリンタタブ 46

プリンタの印刷設定 5

プリンタの選択 46

プリント 16, 17

プリントサイズ 9, 13, 16, 17

プリントモード 15

プレビュー 6

プレビューエリア 6

プレビュー更新 24

プレビュー操作 40

へ

ヘルプ 5

変更後のイメージ 40

変更後の色 40

変更後プレビュー 25

変更前の色 39

変更前プレビュー 24

ほ

保存 6, 40

保存先ファイル名登録 47

保存先フォルダ登録 48

め

メインウィンドウ 4

も

モアレの除去 33, 36

モード選択 5

モード選択ウィンドウ 3

ゆ

ユーザ定義 24

ユーザ定義サイズ登録 43

ユーザ定義の作成 26

よ

読み込み 40

読み込み開始位置 X 44

読み込み開始位置 Y 44

れ

連続でコピー／スキャンをする 42

●本書の記載事項は、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。

OPS125(Scanning Arts 2 for WIN) 取扱説明書

(OPS125-UM-101)

2011年7月1日発行 第5版

発行 横浜市戸塚区品濃町503-10

グラフテック株式会社